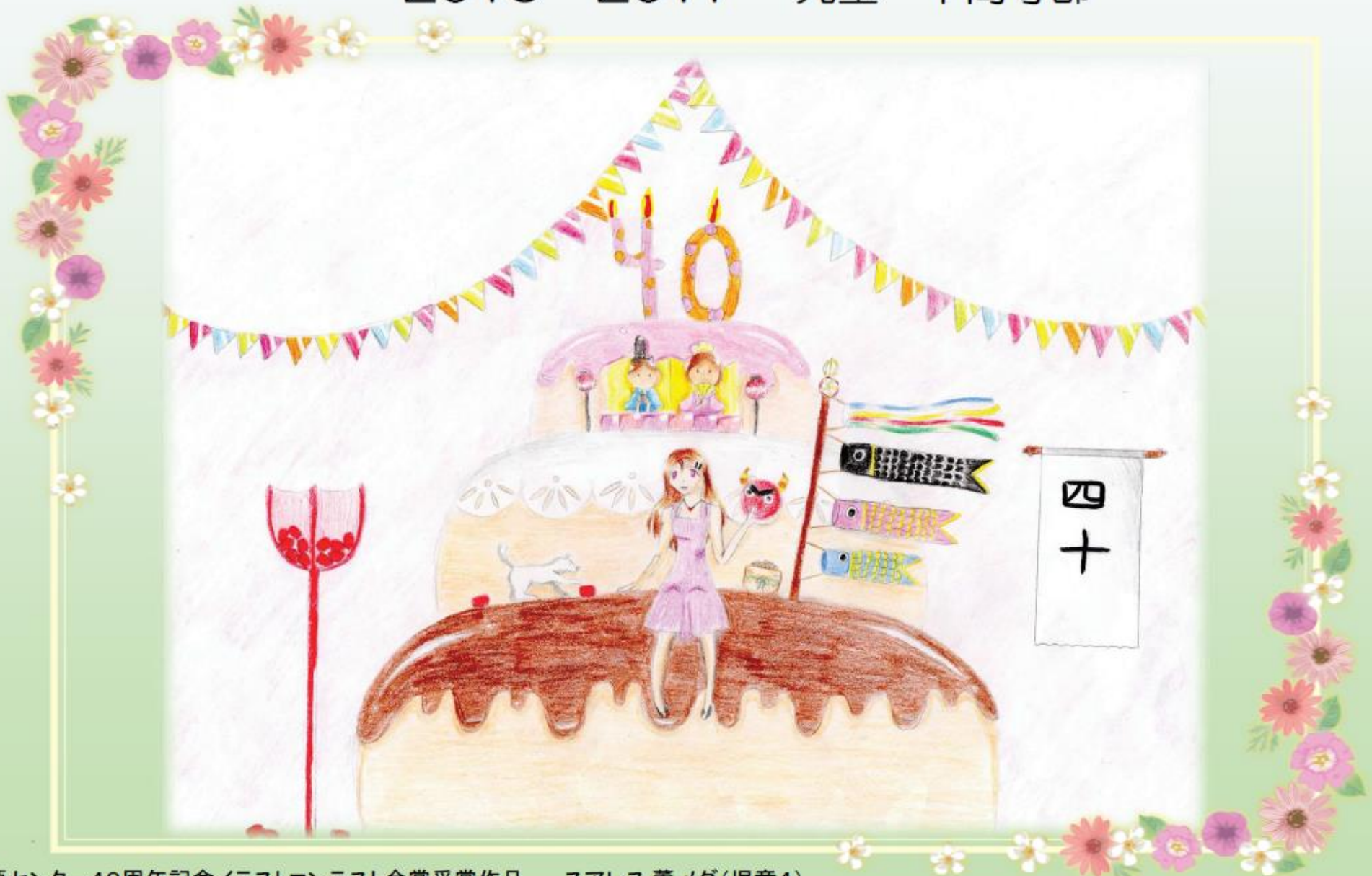


# モントリオール日本語センター

2016 - 2017 児童・中高等部



# 2015年—2016年 児童部・中高等部 文集目次

運営委員長 挨拶	… 4	児童1 秋山先生 クラス写真	… 27	児童3 クラス写真	… 60
役員 挨拶	… 5	担任 秋山 知世	… 28	担任 橋口 麗華	… 61
		ハンマード 彩	… 29	アシスタント オヤルスン めぐみ	… 61
<b>&lt;四十周年記念記念特集&gt;</b>		飯田 亜陽子	… 30	ウドン テオ	… 62
イラストコンテスト銀賞	… 6	岩本 フランソワ	… 31	浦田 真弥	… 63
イラストコンテスト銅賞(幼児)	… 7	ポウ 麗名	… 32	笠井 健治	… 64
イラストコンテスト銅賞(児童)	… 8	稗田 雄瑛	… 33	ゼロット マエリス	… 65
在モンリオール日本国総領事		佐藤 龍斗	… 34	ニシハタ 脩	… 66
倉光 秀彰氏 祝辞	… 9	小松 ゆうた	… 35	ムレイティ 俊青	… 67
<b>日本語センターOB</b>		ポルク アンジェリック空	… 36	水野 真椰	… 68
Wong 直美さん	… 10			江本 彩夏	… 69
遠藤 正樹さん	… 11	◆……………◆		笠井 由貴	… 70
イングラム さと子さん	… 12			佐藤 秀実	… 71
山本 カレンさん	… 13	児童2 登先生 クラス写真	… 37	土居 健人	… 72
大道 朋子さん	… 14	担任 登 佳苗	… 38	中野 連太郎	… 73
		ニシハタ 香子	… 40	樋口 直輝	… 74
◆……………◆		清原 蒨輝	… 41		
		ファラハット 夢源	… 42	◆……………◆	
<b>&lt;児童部&gt;</b>		石川 大貴	… 43		
児童1 小山先生 クラス写真	… 16	ウドラフ ウィリアム	… 44	児童4 クラス写真	… 75
担任 小山 明子	… 17	山城 藍璃	… 45	担任 渡辺 志津香	… 76
中野 順	… 18	小久保 成美	… 46	アビラ 春輝	… 77
水野 雄悟	… 19	山田 ノア隆斗	… 47	飯田 健太	… 79
森岡 優哉	… 20	ラジョワ ケイラ マユミ	… 48	小椋 太陽	… 80
パーベ まや	… 21	◆……………◆		坂本 幸穂	… 81
浦田 咲菜	… 22			スアレス 薫メグ	… 84
阿部 魁人	… 23	児童2 山本先生 クラス写真	… 49	チャペル フランツ	… 85
征矢 麗菜	… 24	担任 山本 智絵	… 50	山城 鈴蘭	… 87
石田 沙羅	… 25	梅山 夏夜	… 51	ライダー 想良	… 89
棗田 ニコル	… 26	チャペル タイン	… 52	デリル テオ	… 90
		アビラ 賢侍	… 53	松井 リブ	… 93
		川島 さつき	… 54	扇谷 玲良	… 95
		四ヶ所 フェリックス龍	… 55		
		ルキマ イヴァン	… 56		
		竹内 美蘭	… 57		
		シュウセグホ デ レリ タイゾウ	… 58		
		小池 勇豪	… 59		

※ 名前、ページ数をクリックすると各ページへ移動します

# 2015年－2016年 児童部・中高等部 文集目次

<b>児童5 クラス写真</b>	… 96
担任 木下 直子	… 97
秋山 沙羅	… 98
江本 想里夢	… 100
小野 恵真	… 101
サーファロフ 渡洋	… 103
瀧野 七海	… 104
樋口 大貴	… 106
宮崎シャブロー 勇輝	… 107
山本 理央	… 109
橋爪 海咲	… 110

## <中高等部>

<b>中高等1 クラス写真</b>	… 122
担任 松田 智子	… 123
秋山 勉	… 126
岩本 晃雄	… 128
橋口 千里	… 129
傅 麻耶	… 131
山本 大	… 133
ムレイティ 遼真	… 135

## <行事写真>

子供の日	… 163
運動会	… 164
書初め	… 165
節分	… 166



<b>児童6 クラス写真</b>	… 111
担任 江本 昌子	… 112
飯田 優太	… 113
松尾 魁	… 115
ルキマ アスティン	… 117
坂本 昌聡	… 119

<b>中高等2 クラス写真</b>	… 136
担任 大場 貴史	… 137
代講 藺田 敦	… 139
鈴木 カミーロ	… 140
ブファー 直美	… 141
マイアス 伊藤 弓	… 143
ムレイティ 龍耶	… 146
山城 文恵琉	… 148
ウドン アリシア	… 150
土屋 玲愛	… 152
ラッチマン 瑛美	… 154



<b>中高等3 クラス写真</b>	… 156
担任 有元 明子	… 157
駒井 空	… 158
小林 百合子	… 160
沼野 友美	… 161

。 ※ 名前、ページ数をクリックすると各ページへ移動します

2016年度日本語センターは四十周年を迎えました。準備期間が短かった事もあり大掛かりなイベントは出来ませんでした。年間の通常行事に組み込み且つ海前係を始め関係者の御協力を得て四十周年特別行事をさせて頂きました。運動会では領事からの祝辞を頂くと共にセンター設立に貢献された方々を招き四十周年祝典をしました。文集では表紙のイラストコンテストを行い、歴代の教員の方々、役員の方々にもお言葉を頂き、四十年の節目を飾る素晴らしい文集となりました。文集にてお言葉を頂いた方々を紹介させて頂きます。長く教員、役員で御貢献いただいた Wong 直美様、センター設立当初の役員として御貢献いただいた 遠藤正樹様、3世代でセンターへ長きに渡って通っていらつしやるイングラムさんと子様、保護者として通っていた山本カレン様、つい昨年までセンターで役員、発表会リーダーとして御活躍された大道朋子様にお祝いのお言葉を頂きました。この場を借りしましてご関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

さて私は2年間役員を勤めさせて頂き、良きも悪きも経験や勉強をしました。体力の限界と家族への負担が大きすぎるのを考えると継続を断念せざるをえませんでした。任期の中で感じた私見を勝手ながら綴らせて貰います。

センターは大きくなり管理が難しくなってきたのは任期中に幾度も説明させて頂きました。センターを樹木で表現させて頂きますと、生徒たちは葉っぱ、先生方は木の幹、役員は根っこだと思えます。四十年をかけた大きな樹木になってきました。現在はその根っこの部分が大きな幹、葉を支えきれなくなっています。どうしたら根っこは強くなれると思いますか？毎年根っこが変わるのなら様々な形でのサポートが必要だと思えます。そのサポートこそが保護者の皆さんの力です。毎年役員の方々が大きな責任の元、数々の犠牲を払って頑張っています。運営全てを役員や教員に任せるだけでなく保護者一人一人が運営者としての自覚をもってサポートするべきではありませんか。行事係をすれば全ての責務が全うされるわけではありません。朝の会や保護者会に出席するだけでもありません。役員業務は地の中の事です、見ようとならない方にはどのような事が行われているかは解らないと思います。何が行われているのか、どのように運営されているのか、どうすべきなのか一人一人認識すべきだと思います。それが保護者が運営すると言う事ではないでしょうか。私は2年間を通してその根っこの立場の難しさと重要性を地上に出して叫ぶ事しかできませんでした。残念ながら私には皆さんを納得させ、動かす力までありませんでした。そして、私には一番必要な時間も環境もありません。この状況で退かなければならない事は非常に心残りではありますが、これからは一保護者として新しい役員方を出来る限りサポートしていきたいと思います。もし運営の事で知りたい事提案があれば私や元役員に聞いてみてください。

もし保護者の方々が運営のことを気にもとめず、お知らせメールも毎週読まず、役員や教員へ全てを任せてしまっている状態が多く見られるようであれば役員にもっと権限を与えたり体制を変えたりなどをし運営の根本を変える必要があると思います。これからはそこをもっと話すべきことだと思えます。それは役員の仕事だけではないと思います。何度も言いますが、モントリオール日本語センターは大きな樹木です。根っこ、木の幹、葉っぱそしてそのサポートが重要です。幼児1の人数を制限する事によって、今年は木の大きさを決めました。これからは地に根をしっかりと張れるよう何をすべきか一緒に考えていき、各々を尊重しながら更に成長を遂げていただきたいと思います。

最後に役員の位置づけを考える事は現在の役員だけの為ではなくこれからの保護者の方の為でもあります。誰が次期役員になるかは判りません。自分が役員をするときの事を考えながら役員のあり方を考えてみてください。

2年間ありがとうございました。

# 2016 - 2017 モントリオール日本語センター役員

出来るのかどうかも分からない状態で手を挙げ一年。数字が得意でもないのに会計を担当し必死に業務をこなしました。一緒に会計を担当したギルボさんと支え合い、周りの皆様に助けられ何とか終わりを迎えました。これからも子供達が好きセンターに通うことができる様少しでも役に立つことができたのなら幸いです。一年間有難うございました。

会計 清原 由香里

引き継ぎ期間も含むと一年以上役員として業務を行ってきました。何もかも手探りで一杯一杯だった一年だったと思います。この後の役員さん方が気持ち良く務めれる事、子供達がこれからも楽しくセンターに通える事を祈っています。一年間ありがとうございました。

会計 ギルボ 伸代

疾走した一年でした。現場にいる教員、そして何より生徒である子ども達を第一に、センターに始まりセンターに終わるような一日を重ねてきた一年でもありました。運営側の想いを理解して頂くには時間が短すぎたり、状況として厳しかったり、決して楽しいことばかりではありませんでしたが、この先のセンターのこと、子ども達のことに対する想いは無駄ではなかったと思っています。これからは、一保護者としてセンターに貢献していきたいと思っています。

副運営委員長 阿部 彩子



日本語センターは今年度で創立40周年を迎えました。その記念すべき節目の年に偶然にも役員に立候補致しました。沢山の方々に支えられ、多くのことを学ばせて頂いた一年でした。40年の歴史を築いて来られました、全ての皆様に感謝と敬意を表し、これからも日本語センターの為に微力ながら協力していきたいと思っております。

保護者代表 遠藤 有希世

2016年度は変化の多い年でした。生徒数は300名を超え、3階、4階のより広いスペースにて教室を使用することになりました。今年は40周年を記念する年になった為、企画準備で大きなことは出来ませんでした。が、係やボランティアの皆様のご協力があったお陰で、素晴らしい記念文集になりました。皆様ありがとうございました。

保護者代表 小池 幸恵

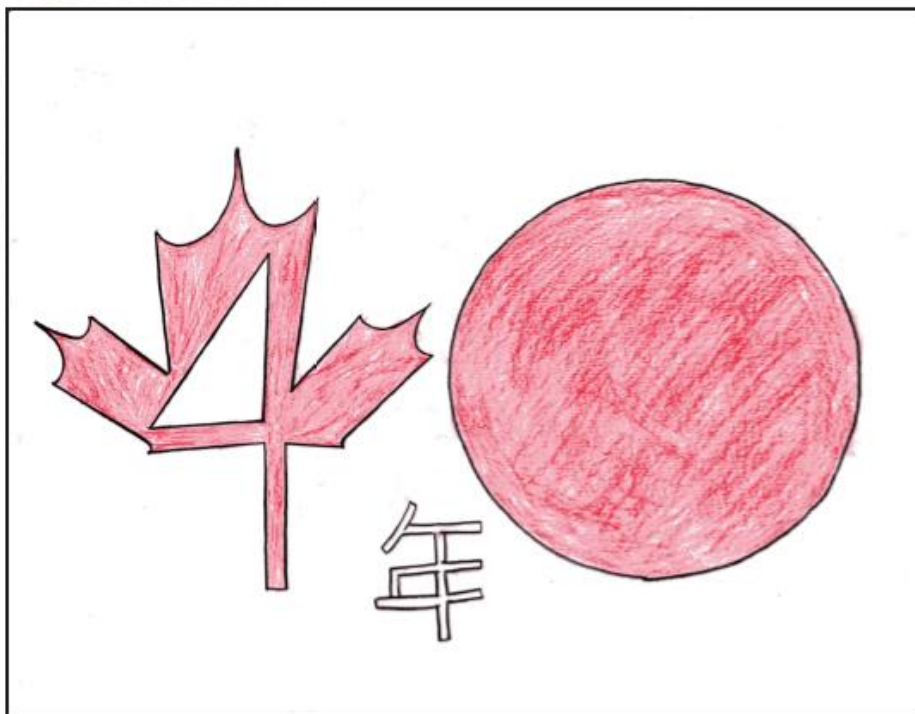
本当に務まるのかと不安だらけで始まった役員業務ですが、運営に携わり、教員やアシスタントの方々のご尽力と保護者の皆様の協力の上、センターが成り立っていることを実感勉強させて頂きました。今後も色々な課題が出てくると思いますが、子供たちが楽しく通えるセンターになるよう、一保護者として少しでも貢献できたらと思います。1年間ありがとうございました。

副運営委員長 千田 恵美

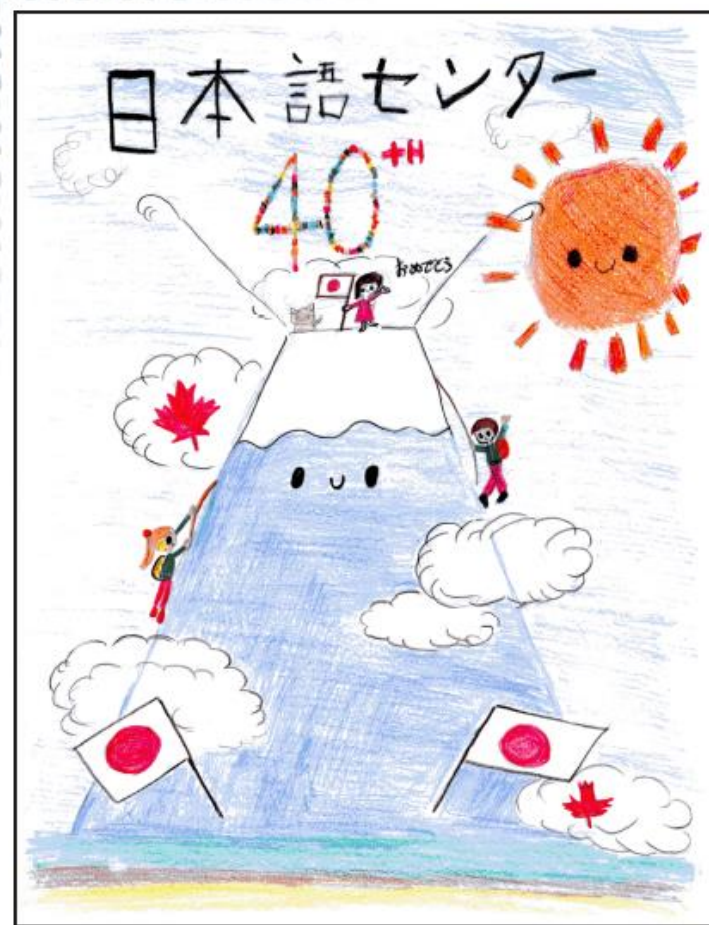
# 40周年記念特集

## 日本語センター40周年企画文集イラストコンテスト

銀賞



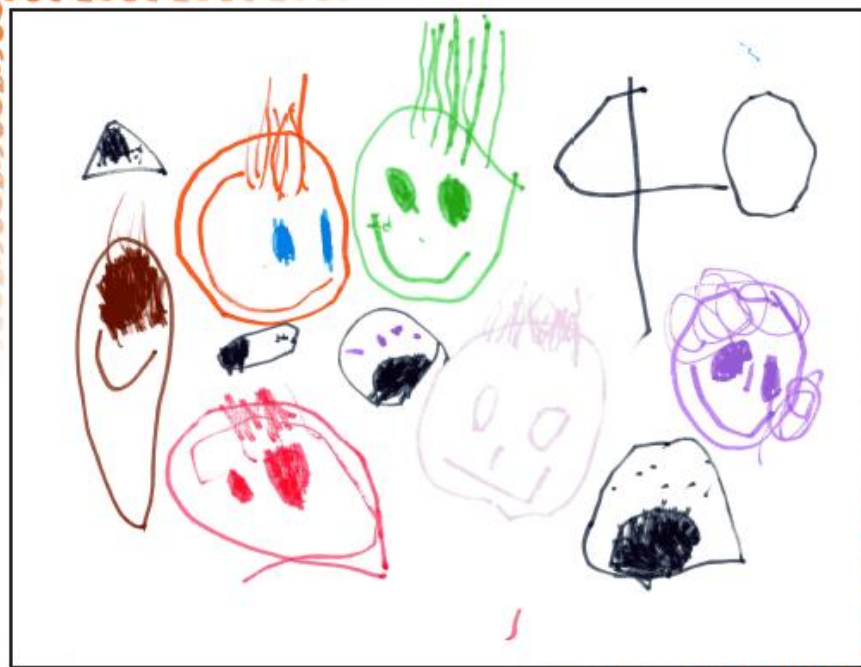
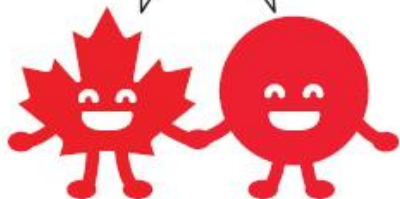
銀賞 江本想里夢さん(児童5)



銀賞 笠井由貴さん(児童3)

# 日本語センター40周年企画文集イラストコンテスト

銅賞



銅賞 石田慶悟さん(幼児1ぱんだ組)



銅賞 黄陽椛さん(幼児3つき組)

# 日本語センター40周年企画文集イラストコンテスト

銅賞



銅賞 石田沙羅さん(児童1)



銅賞 笠井健治さん(児童3)



銅賞 傳麻耶さん(中高等1)





モントリオール日本語センター開校40周年記念祭・運動会祝辞

在モントリオール日本国総領事 倉光秀彰

モントリオール日本語センターは、1976年に日本語教育を通して子供達に日本人としてのアイデンティティーを残したいと切望する保護者の有志の方々によって創立されたと伺っております。それから40年の間に生徒数は280名を超えるところまで増加しています。このことは、日本語センターの運営において、これまで、保護者の皆様の並々ならぬ御尽力の賜であると受け取っております。そうした中、本日は開校40周年を記念して、開校40周年記念祭・運動会が開催されますこと、誠にめでとございます。

日本国内でも、多くの学校で、運動会が開催されますが、運動会が日本で行われたのは明治時代、今から140年も前のことだそうです。日本の教育において伝統行事と言える運動会を、モントリオール日本語センターでも開催していることは、子供達が、日本語の勉強だけでなく、日本の文化も体験できるといふことであり、子供達にとって素晴らしい経験であると思います。

モントリオール日本語センターは3歳のお子さんから通学されていますので、幼児部から児童・中等部のお子さんまで、多彩な運動会が午前午後と開催されることと思います。

また同時に、このような運動会を毎年開催するために、モントリオール日本語センターの運営委員の皆様、諸先生方、そして、運動会委員の方々が、準備の段階から当日の運営まで様々な工夫をされていると伺っております。モントリオール日本語センターの子供達のために、今後ともよろしくお願いいたします。

生徒の皆さんにとっても、今日は、待ちに待った運動会と思います。

日頃の皆さんの頑張りを、今日は、運動会での様々な競技を通じて、充分発揮してください。皆さんの運動会が楽しい思い出となるような素晴らしい大会となることを願っています。

2016年10月29日

継承語教育は子供の心の問題、人格形成、知的発達と直結しており、教育的に非常に大事な分野である。(中島和子・名古屋外国語大学)

継承語は、親子のコミュニケーションとして必要不可欠な言葉です。つまり、子供の情緒安定、アイデンティティの形成に深くかかわる言語教育としてその意義は非常に大きいといえます。(フランクフルト継承にほんご教室)

私共が三才半と五才の娘を連れて当地に越してきたのは。今から約三七年前の事です。当時、モントリオールには国語としての日本語を教える日本語補習校と継承語としての日本語を教える日本語センターがありましたが、私は日本語センターに娘を通わせることにしました。創立してからの日もまだ浅いセンターは、規模も小さく組織としての体制も整っていませんでしたが、運営陣、先生方、保護者が一体となつて、いかにして楽しい雰囲気の中で子供達に日本語を習得させるかという事に関して努力を惜しまず、家庭的で和やかな雰囲気でした。同時に英仏バイリンガルのカナダ社会にマイノリティーとして巣立っていく子供の情操面、文化面に重きを置いた日本語教育に対する情熱も感じられました

ウオング直美

先ずは、モントリオール日本語センター40周年おめでとうございます。

私は1980年代に二人の娘を9年余りモントリオール日本語センターに連れて行くかたわら学校の運営に関わり、主に日本の国際交流基金、カナダ政府、ケベック政府から補助金や教科書などを頂く手続きなどをしていました。

母親がカナダ人で父親が日本人である場合、子供の日本語教育はとても難しくなっていくことが予想されます。それは子供と接触する時間が極端に限られているからです。上の娘が生まれた時に子供の日本語教育に非常な不安を覚えました。自分の子供にへたくそなフランス語や英語で話すなんてとても考えられない。迷っている時に会社の年配の女性から諭すように「言葉は親からの最高の贈り物」ですよと言われはつとしました、これは何としてでも日本語を教えなくてはならない。もうこれしかないと決意し毎日涙ぐましい努力をしました。幸い職場が自宅の近くでしたからお昼は家に帰り、朝、昼、晩と毎日15分、30分と絵本を読み、話しかけ、いっしょにいる時間を作りました。娘に男言葉を教えるわけにもいきませんのでいつも丁寧な言葉で話しました。1980年に入って売り出されたVCRは大いに助けになりました。日本のアニメを見させているいろいろな言葉使いにも接するようさせました。毎週土曜日に日本語センターに行つて友達といっしょに日本語環境の中で日本文化に接することは言葉を習う以上に有意義なことだったと思っています。週2時間では日本語は習得できません。やはり日本語は家庭でしっかり教えることが大事です。私の二人の娘は37と39歳になりましたが、今、私と普通に日本語で会話ができることの嬉しさを感じています。

私の話を参考にされ日本語を真剣に教えてあげて下さい。それは親から子供への素晴らしい贈り物になります。

遠藤正樹

日本語センター創立から、もう40年も経つのですね。40年前のモンリオールは日本人も少なく、ケベックの人たちにも日本についてはあまり知られていませんでした。今では誰でも知っている「寿司」も、「それ、何」との返答がかえってくる調子。要するに「富士山芸者」でしか知られていない日本でした。

そんな中で、カナダ人日本人の混血である娘に日本語とその文化をどのように伝えていくかが私の子育ての課題でした。日本文化に誇りを持って欲しいのが私の願いでした。「現地校の子供たちが土曜日は楽しく遊んでいるのになぜ私は学校に行かねばならないの？」とか日本に行くと「混血の子供」としての偏見を受けるなどの経験から「日本語を学ぶ」ことに反撥を表したこともあります。しかし自分が母親になった今、自分の子供（私の孫）を日本語センターに通わせています。彼女も日本語日本文化を学ぶ大切さを思うようになりました。ケベックの人たちも日本文化を称賛し始めています。日本文化を大切に子供を通じて継承していくことを目的にもった日本語センターの役割は大きいと思います。益々の発展を願っています。

イングラムさと子

"Happy 40<sup>th</sup> Anniversary to the MJLC! I would like to thank the MJLC for the honor of contributing to your commemorative text. There were so many amazing volunteers who have contributed their time and talent over the years that I am humbled that you would ask me to write a few words. Though my son unfortunately did not learn as much Japanese as I would have liked, that is entirely my fault! I did not speak as much Japanese as I should have at home. However, your school certainly accomplished my main goal for enrolling him – to learn about and be proud of his Japanese heritage. The gift your center provided to my son was to instill in him an appreciation, curiosity and pride of his Japanese roots. It is now a large part of his identity. He has done class presentations about Japan, what it means for him to be Japanese-Canadian, the language, the food and the culture. He tries to speak Japanese with his grandparents. He is eager to visit Japan next year. He has participated in Taiko every week since he was about 6 years old and is very proud and happy to be part of that community. Even though it's been about 5 years since he attended the MJLC, he still remembers loving setsubun,

undokai, akimatsuri, etc. I strongly feel that pride, confidence, discipline, the importance of tradition, respect and sense of community can only be gained and reinforced with the help of others and the MJLC was an important part of teaching those values to my son.

Again, thank you for the honor, the priceless cultural experience and many good memories."

Karen Yamamoto

日本語センター創立四十周年に際して

大道 朋子

娘二人が日本語センターに通った十年間、保護者としての活動を通して様々な経験をさせて戴きました。

特に、リーダーを務めた発表会の思い出は格別です。発表会系の醍醐味は、発表会一週間前にして完成と言うには程遠い出来栄えだった作品が、発表会本番には見違える程素晴らしいものになるまでの過程を、先生方や生徒達と一緒に共有できることです。生徒達が本番で発揮する能力には毎年驚かされましたが、それ以上に、発表会に向けての数か月間、発表内容の考案から準備、また、生徒への指導に多大なる時間と労力をかけてくださる先生方には脱帽の思いでした。先生方の情熱と努力があるからこそ、毎年の発表会が素晴らしいものになるのでしょうか。

日本語センター創立以来四十年の間に教鞭を執られた先生方に、改めて敬意を表すとともに、日本語センターが日本語教育の場としての価値を更に高めていってくださることを期待します。



兒童部



児童部 1 小山 明子 先生



一年を振り返って・・・

### 児童1 小山明子

日本語センターで児童1のクラスを担当し始めてから5年が過ぎました。今年度も様々なキャラクターが勢揃いの楽しいクラスの仲間たちに出会うことができ、とても楽しかったです。

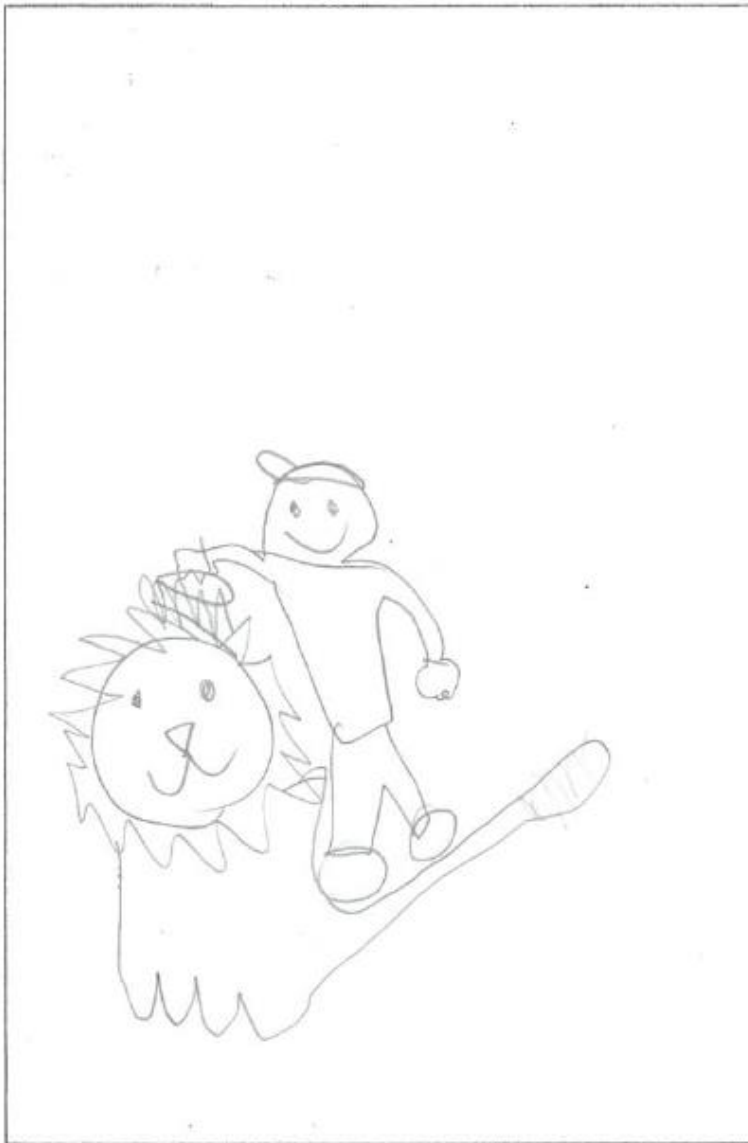
特に、お姉さんの存在の女の子が多くて、先生のお手伝いのみならず、困っているお友達を助けたり、忘れ物をしたお友達に自分のものを率先して貸してくれたりしました。本当にみんな頼もしかったです。

そんな女の子たちに囲まれて、少し控えめな静かな男の子たちですが、ゲームなどの体を動かすときは俄然力が湧いてきて、元気いっぱいクラスを盛り上げてくれました。それから、私が知らないこと（アニメやゲーム）をたくさん教えてくれました。

児童1以上では、教室の清掃を生徒自身が保護者の方の助けを借りながら行うのですが、みんな自分たちできちんと掃除をすることが出来ました。日直と清掃当番が回ってくるのを楽しみにしてくれるくらいでした。みんな、よくがんばりましたね。

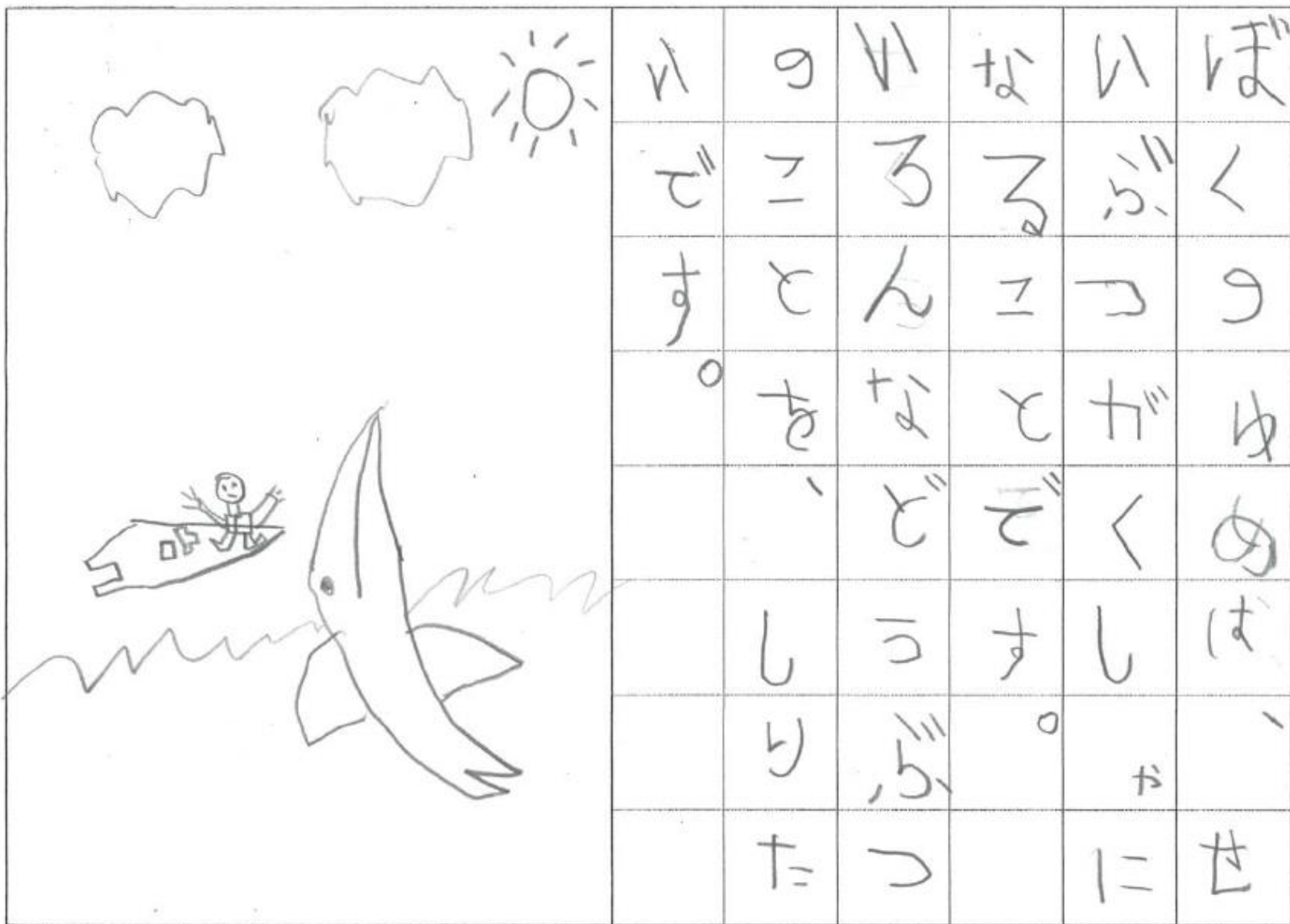
今年度は、2学期に出産をしたためにお休みをいただきました。その間の4カ月間もの長い間、代講をしてくださった西畑先生、どうもありがとうございました。また、お休みすることを快く了承してくださった役員の皆様、児童1の保護者の皆様にも感謝申し上げます。

児童1のクラスの子どもたちにも、1学期から3学期の間に先生がころころと変わってやりにくかったと思いますが、大変よく頑張ってくれました。3学期に私が戻ってきたときに、みんなが1学期のころと変わらず、私の授業を楽しんでくれたので、とてもうれしかったです。来年度からはクラスの仲間はバラバラになってしまうけれど、変わらずに日本語を楽しく学んでほしいです。



			め	+	グ	わ
			ご	ん	う	た
			す	に	ぶ	し
			。	な	つ	の
				る	の	ゆ
				の	お	め
				が	も	は
				ゆ	わ	

題  
わたしのゆめ  
なまえ  
たけがのじけん



題

ほく  
の  
ゆめ

なまえ

ゆ  
こ  
い



題

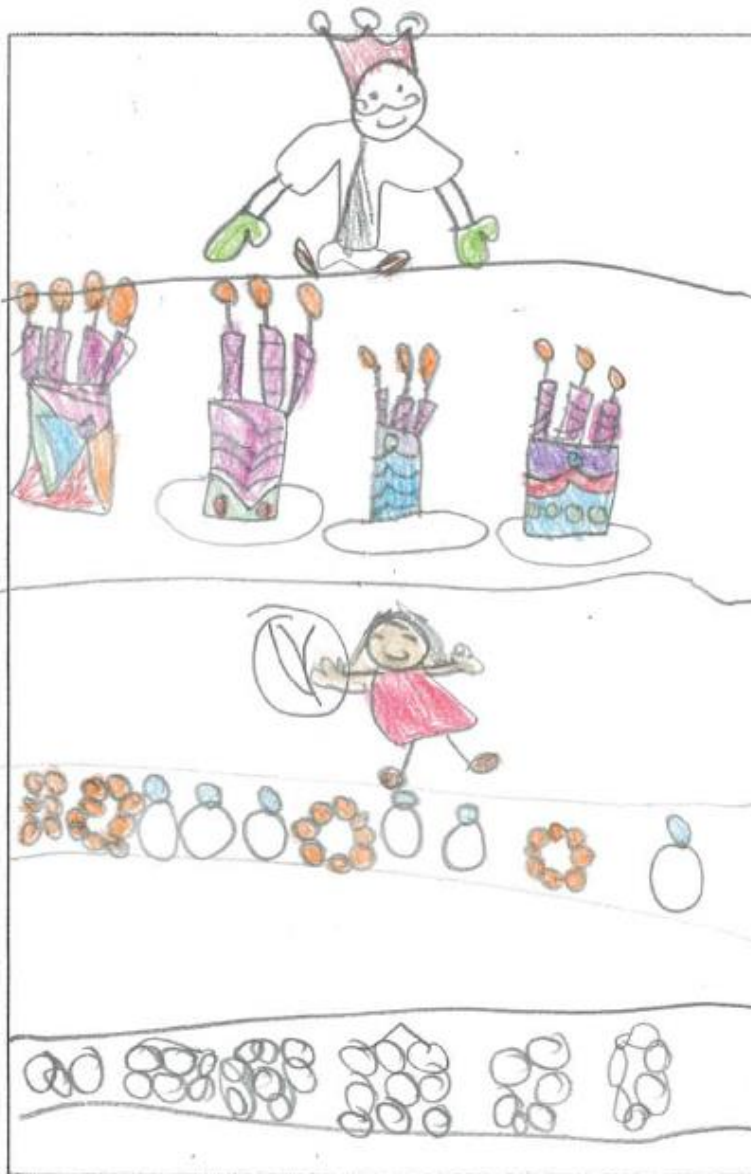
ぼくのゆめ

なまえ

ゆうや

ぼくはメカニカルエンジニア  
 になりたい人でず。ひとをたすけ  
 てることはいいことです。□ボット  
 はべんりです。

□ボットはりょうりじごとなん  
 でもできまあ。



に	か	え	と	い	お
な	ほ	は	を	ろ	お
り	う	け	し	ん	き
た	せ	し	た	な	く
い	き	き	い	す	か
。	や	や	。	ご	っ
	さ	さ	た	い	た
	ん	ん	と	こ	ら

題

わたしのゆめ

なまえ

まかパー



		ヨ	ガ	ア	の
		ー	リ	シ	の
		に	に	カ	の
		こ	が	の	の
		た	っ	し	な
		は	こ	り	っ
		こ	く	た	た
		あ	ッ	ガ	ら

題

わ  
た  
し  
の  
ゆ  
め

なまえ

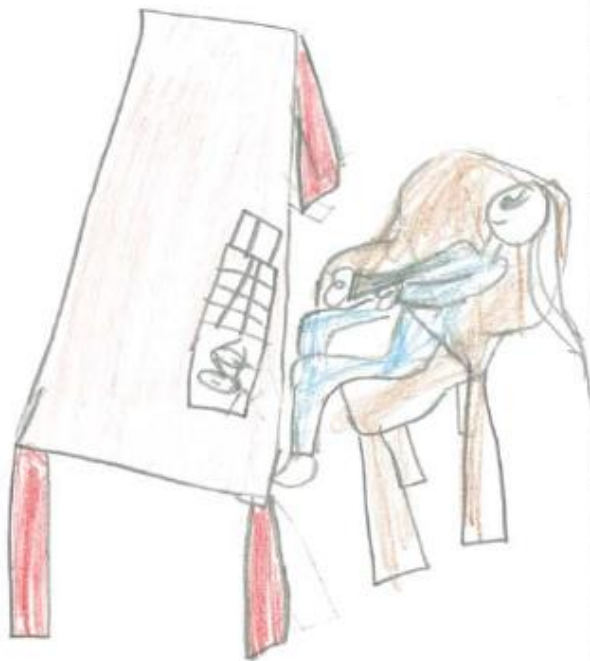
う  
ら  
た  
な  
が



			た	い	ほ
			り	あ	く
			た	い	は
			い	し	
			て	や	し
			あ	さ	や
			お	ん	う
				に	ら

題  
た  
い  
た  
り  
も  
の

なまえ  
あ  
べ  
か  
い  
と



で	い	う	る	ア	あ
す	っ	っ	こ	ー	た
〇	は	く	と	ー	し
	い	し	で	ー	の
	か	い	す	ス	ぬ
	き	え	〇	ト	め
	た	あ		ト	は
	い	、		た	、

題

おたしのゆめ

なまえ

れいな





のお手つだいをがんばります。  
 わさくんないなるためにつれからもママ  
 ンマにもつくとあげたいです。ケーキ  
 たから、わたしもママのたん生日につく  
 てあげたいからです。グラランパとグラ  
 生日にがわいくておいしいケーキをつくってこれ  
 なることです。ママがわたしのたん  
 わたしのゆめは、ケーキがわさくんに

題  
 わたしのゆめ  
 なまえ  
 石田ヤンゴ



		て	さ	ほ	ほ
		す	ん	ん	く
			に	へ	の
			の	い	ゆ
			ほ	つ	め
			る	て	は
			こ	い	
			と	じ	に

題  
ほ  
く  
の  
ゆ  
め  
なまえ  
い  
こ  
る



**児童部 1 秋山 知世 先生**

## じどう二のみんなへ

あきやま ともよ

みんなで しりとりしたね。さあ、みんなのなまえで しりとりするよ！

せんせい

いつもニコニコ、みんなをえがおにしてくれる ふらんそわくん

わたしのことを ともよーっ！ とよんでくれる ゆうえいくん

いろぬり おりがみ、きょうで こうさくがとくいな れなちゃん

なんで そんなに にほんごをしってるんだああ りゆうとくん

とてもおっとりしてるけど ひと一ばい がんばりやな ゆうたくん

たよりになって めんどろみのよい おねえさん あびこちゃん

こいびとみたいに わたしのかたわらにきて はなしてくれる あやちゃん

やらないよお！ といいながら きちんとノートをとってる そらちゃん

ひらがな、カタカナのおべんきょう、よくがんばったね。これからは、かんじもたくさん ならうね。よめる字（じ）、かける字がふえると、もっと、たくさんのごんごを することができるよう。

みんなが まいにち、すこしずつがんばっていることは、想像力（そうぞうりよく）という とても たいせつな タネを、まいていることなんだよ。そして、そのタネは、みんなが「これ、おもしろいな。」「これ、たのしいな。」「これは、どうなっているんだろう、ふしぎだな。」とか たくさんのきもちが えいようになって、そだつんだ。それを、たいせつに そだてる と、創造力（そうぞうりよく）という すてきな花（はな）がさくよ。

一ねんかん、みんなと いっしょにおべんきょうできて、たのしかった。げんきを たくさんもらったよ。どうも ありがとう！ じどう二になってもがんばってね。おうえんしてるよ。





	る	も	た	ぎ	日
	か	の	ぜ	た	本
	ら	が	た	い	に
	で	い	ら	で	も
	す	ッ	お	す	う
	。	は	い	。	ー
		い	し		ど
		あ	い		い

題  
わたしのゆめ  
なまえ  
あが

題

おたしのゆめ

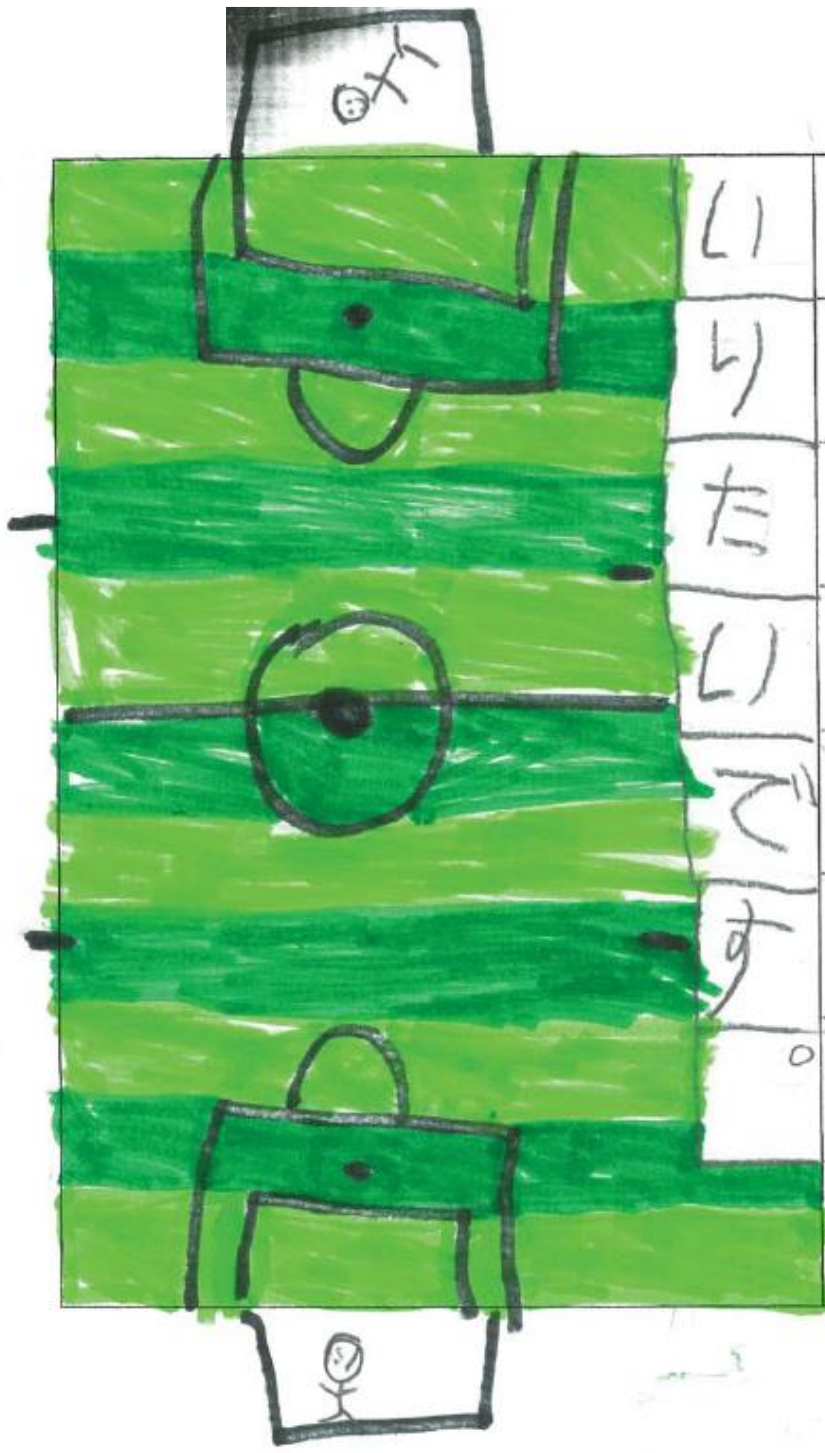
なまえ

おまこ

お	に	ち
と	な	た
り	身	し
る	た	は
	け	け
	せ	し
	あ	さ
	も	っ

る





い	ソ	で	の	ラ	い	ほ
り	ス	す	チ	ン	ま	く
た	で	。	ト	ス	た	は
い	チ	ほ	の	い	フ	
で	く	が	サ	で	ラ	
す	。	も	ツ	ま	ン	
に	フ	よ	カ	。	ス	
は	ラ	い	。	フ	へ	

題  
ロってみたいくに。

なまえ  
山石本フヲソソワ

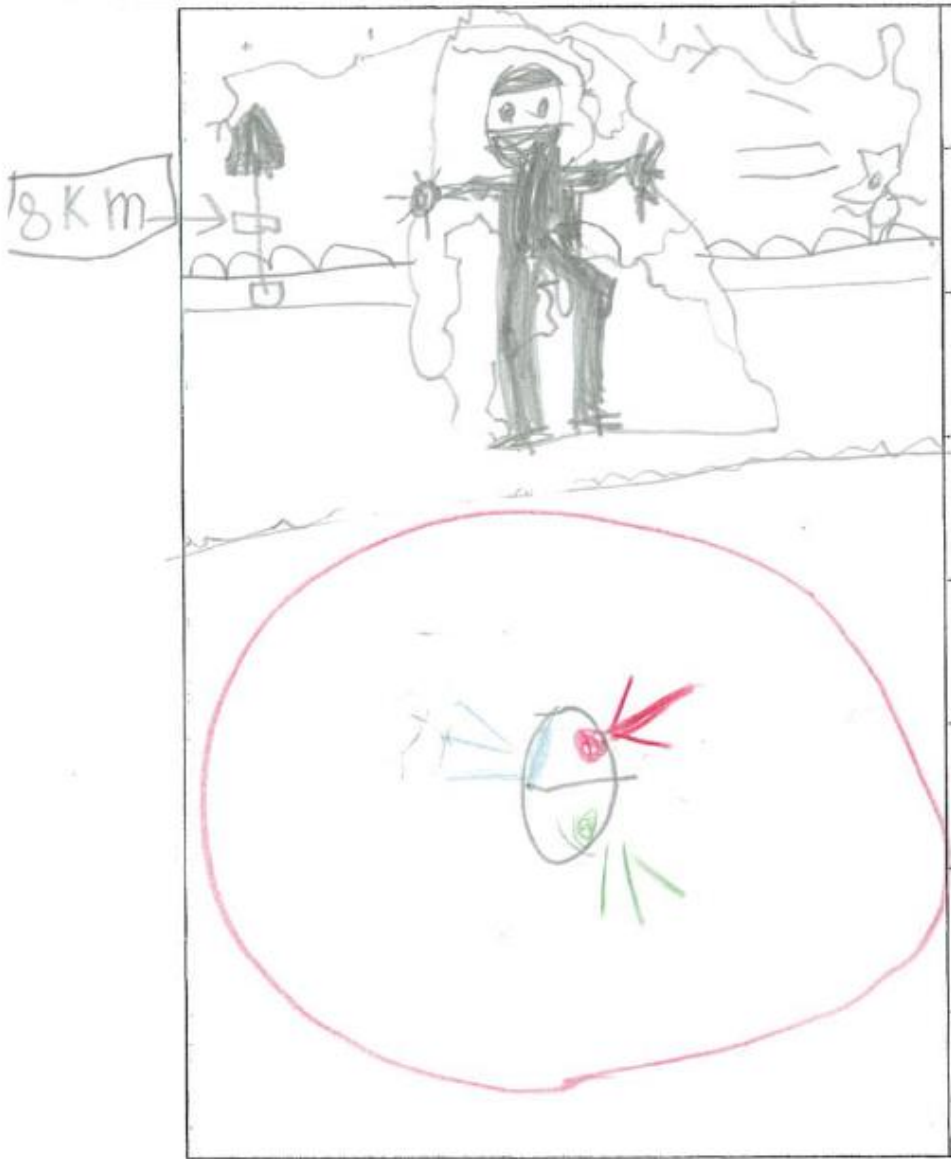


い		ん	け	あ	
す	あ	に	る	か	わ
き	か	な	、	ち	た
	ち	る	お	や	し
	や	こ	い	ん	の
	ん	と	し	を	ゆ
	、	で	や	た	め
	た	す	さ	す	は

題  
わたしのゆめ

なまえ  
れな





す	し		に	く	
。	ゆ		な	な	ほ
		に	よ	よ	ほ
	ぎ	ほ	り		く
	あ	ん	た	た	ほ
	う	に	ら		
	ち	い	で	に	お
	し		す	ん	お
	ま	て	の	じ	ま

題  
ぼくのゆめ

なまえ  
ひえだゆうえい



す	か	い	に	ほ	大
〇	け	ろ	な	ん	き
	る	ん	り	を	く
	と	な	た	つ	な
	お	え	い	く	
	も	ほ	で	る	た
	い	ん	す	ひ	ら
	ま	を	〇	と	え

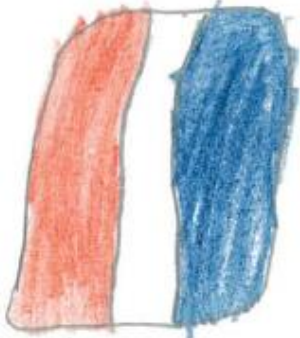
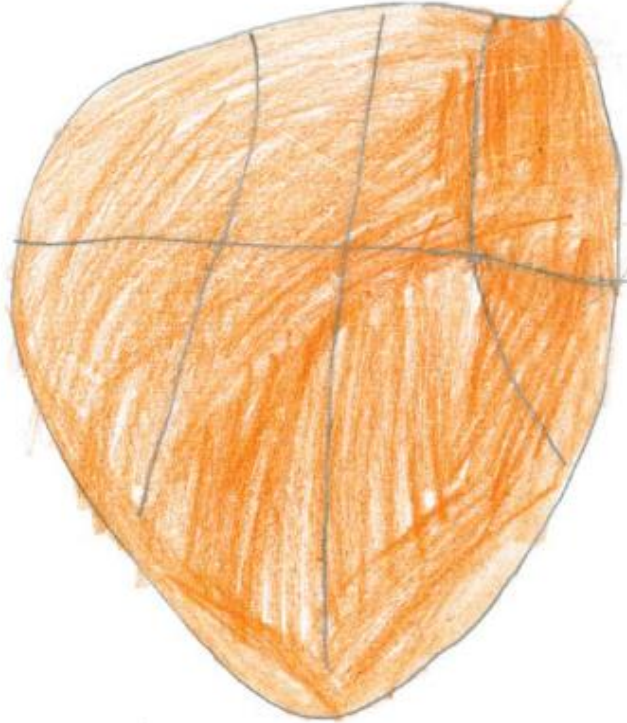
題

なよりたすたの

なまえ

りやこと

題



	が	B	に	ヶ	が
	ま。	A。	な	シ	く
		は	リ	ト	め
		は	た	の	ゆ
		い	い	せ	め
		り	で	ん	は
		た	す。	し	バ
		い	N	ゆ	ス

せんしゅ

なまえ

ユウタ



し	ん	に	と	い	の	く	
た	で	し	を	で	せ	な	お
い	ほ	と	み	す	ん	っ	た
で	ん	り	ん	。	せ	と	し
す	ま	。	な	た	い	ら	は
。	よ	と	で	の	に	が	い
	ん	し	い	し	な	っ	お
	だ	。	よ	っ	い	り	こ
	り	が	し	。	こ	た	う
							き

題

おたのめめ

なまえ

ボルクMus



兒童部 2 登佳苗先生

あつたらいいな こんなもの

児童2 担任 登 佳苗

私があつたらいいなと思うもの、「どこでもドア」と「ほんやくこんにやく」。ドラえもんが出してくれる道具の中では、この二つに勝るものはない。

「どこでもドア」があつたなら、飛行機乗り継いで20時間以上かかる日本だって、ピンポンであつという間！いつもの学校だって、着替えたらいっ、もう教室の中！なんて、らくちんなんでしよう。

「ほんやくこんにやく」があれば、日本語、英語やフランス語はもちろん、世界のどこのどんな言葉でも、動物の言葉でも、虫の言葉でも、全部わかって、ペラペラしゃべれるちゃうんです。何回やつても覚えられないと悩むことない。どんなにいいでしょうね。

でもこれって、今から40年以上前に不二子先生たちが未来を考えて生まれたもの。昔の日本人が想像したものに今もまだこんなにワクワクできるなんて、彼らの想像力は偉大です。

ドラえもんの道具はまだ何も具現化してないけれど、子供の頃あつたらいいなと思っていたもの、今の世界で本当にあるようになったものもあります。例えば、テレビ（ビデオ）電話。文字盤のないコンピューター、つまりタブレット。そしてほぼコンピューターのような携帯電話をほぼみんな持っている状況。

文明や技術の進化はこれからも続くでしょうから、この先たつた20年30年先の世界がどんな風になっているか、正直想像もつきません。

そんな目まぐるしく変化していくであろう未来の世界を牽引する子供達に、今どんな力をつけてやればいいのか。私たち大人が、子供時代の彼らにしてやれること、今与えるべきことは何だろうか、私は日々考えてしまいます。

インターネットのおかげで、自身を動かすにできることは格段に増えました。その一方で、実際に自分の身をおこななければ体験できないこと、心を揺さぶられる経験というものを大切にしなければという思いがより強くなりました。

私が預かる日本語センターのクラスでは、売り物を自分で用意して売り買いするお買い物ごっこや、折り紙、漢字ビンゴ、カルタに伝言ゲームなど、ちよつとアナログな遊びを授業に取り入れてきました。いつ

か大きくなった彼らが子供時代を振り返った時、ともすればやや面倒で時間のかかる遊びこそが、遊びや学びの楽しい記憶として残ると信じて。

私があつたらいいなと思うもの。

ドラえもんよりもっと面白い未来のロボットを仮想する子供達で溢れてる世界であること。優秀で便利なロボットやマシンが教えてくれないこと、”ドキドキする心・想像・創意工夫・思いやり” それらに溢れた人間がいる世界であり続けること。合掌。

題

あたらしいなよとおもなまえ  
西畑 香子

わたしがあたらしいなよとおもなまえの  
は、しゅくだいをしてくれるロボットア  
す。たとえばは、学校に行きたくなまかた  
ら、ロボットがカありに行く。そして、お母さん  
んにしがられたら、ロボットがカありに  
おつかわれるとカ。そのういっつロボットが  
あつたらいいなとおもなまえ。

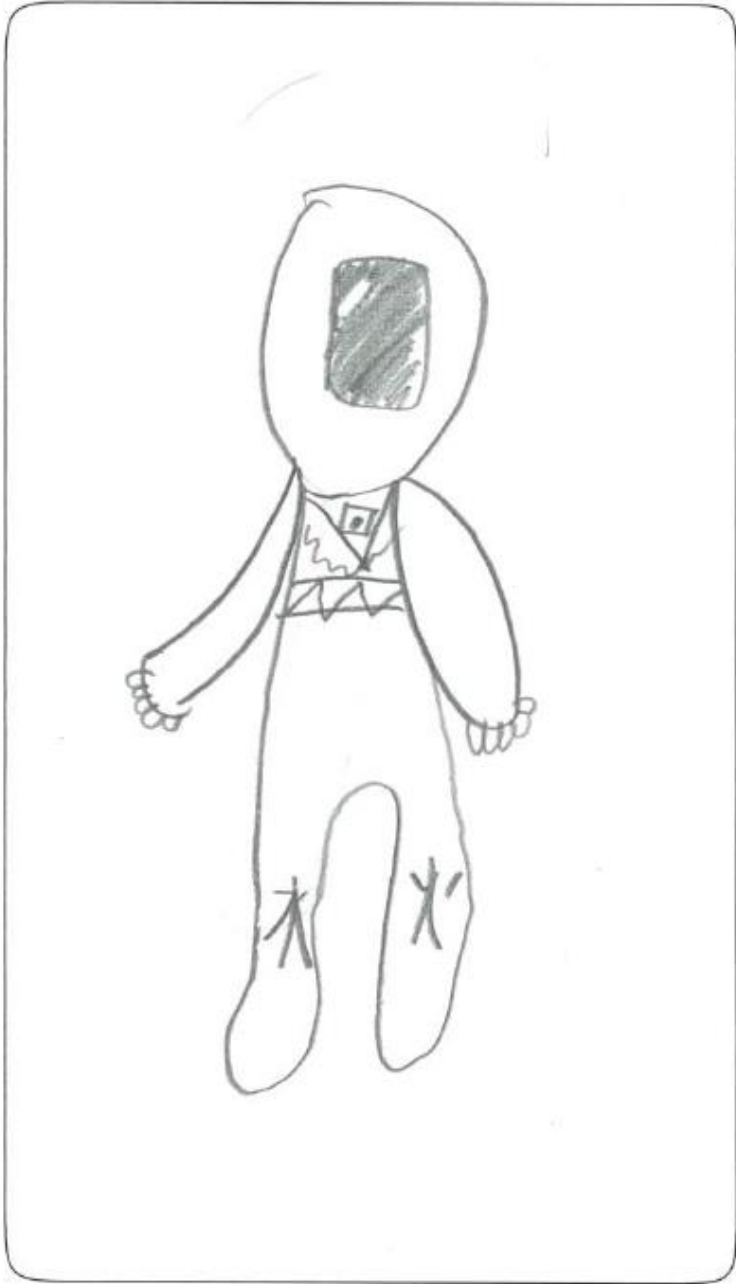




だい あつたらいいなこんなもの



「ま」が、あつたらいいな、たおもうも  
 のは、なまにでもなれる、おくすり  
 ぞす。このおくすり、きこのんたう、い  
 に、い、よるか、いうと、な、り、たいもの、に、  
 な、れ、ま、す。  
 うほくが、な、り、たいものは、サ、メ、ぞす。  
 うみの、な、か、を、み、たいぞす。  
 なまえ きよはら



題 あったらいいな、こんがよもの

なまえ

フアンバットゆうげん

よくが、あったらいいなとおもうものは、  
 コレでもいけるスーツです。  
 このスーツは、火をたずけるためにつくり  
 たいです。

たとえば、火じのときや、つなみのときにつかうん  
 です。このスーツは、火じのときは、  
 あつくはちかく、水の中は、いまがでます。



	つ	た	学	ホ	は	い	
	た	い	校	い	い	ほ	
	か	か	ト	か	く		
	て	ら	し	と	か		
	ほ	い	て	こ	お		
	し	の	る	す	く	も	あ
	い	て	し	た	う		
	て	い	毎	い	も	た	
	す	て	く	日	口	の	ら

題

しかた  
た  
い  
果  
ト

なまえ

い  
しか  
た  
い  
き



題

はねがえりサッカーゴール

なまえ

ウドラフ ウェリアム

ぼくが思った方がいいなと思おうものは、けった  
 ボールをはねがえりサッカーゴール  
 フットです。

リゆうは、一人でサッカーのれんしゅう  
 をするとき、わざわざボールをとり  
 に行かなくてよく、れんぞくでフット  
 がうてるからです。



	レ	女	テ	る	た	リ	
	ま	の	う	い	い	わ	
	す	子	ダ	の	で	う	た
		で	ク	な	す	せ	し
		テ	チ	ま		ペ	は
		リ	ル	え	そ		
		一	で	は	の	ト	ホ
		と	す		し	に	
		り		フ		し	う

題  
「あつたういいのこゝろなものは」

なまえ  
山しろあいつ

題

まほうのほうき

なまえ

なるみ

ご	ん	い	い	ま	ま	い	
す	の	き	ろ	ほ	ほ	い	わ
。	う	た	い	う	う	た	た
お	み	い	ろ	の	の	と	し
し	へ	ご	た	ほ	ほ	あ	が
ま	い	す	と	う	う	も	、
い	き	。	こ	き	き	う	あ
。	た	に	ろ	ご	ご	の	た
	い	ほ	へ	、	す	は	ら

。、





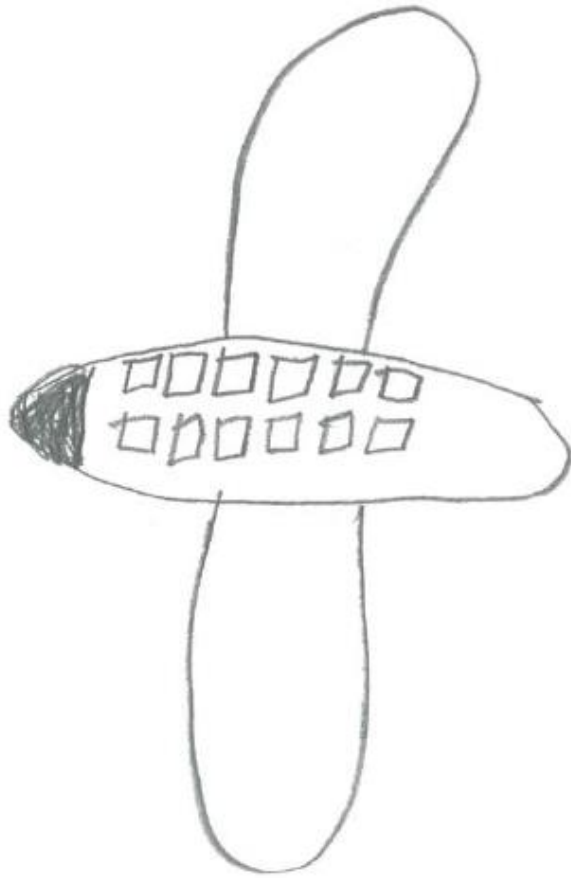
す。	ゲ	ッ	い	い	ま
	ト	ぶ	な	く	
	ご	ん	と	が	
	が	す	の	あ	
		ア	も		
	ご	ア	ウ	た	
	ま	れ	の	ら	
	ま	は	は	い	

題

あ、た、ら、い、い、な、ん、な、ま、の

なまえ

の  
あ



		け	り	に	わ	き	あ
		る	と	ど	た	が	り
		か	こ	こ	し	め	た
		ら	る	に	の	っ	た
		で	に	で	す	た	み
		す	す	も	き	ら	の
		の	ぐ	行	な	い	ひ
			に	き	と	り	こ
			行	た	き	な	う

題

お  
り  
た  
た  
み  
の  
ひ  
う  
さ

なまえ

け  
り  
ら





**児童部 2 山本 智絵 先生**

児童2 山本クラス

「あつたらいいな こんなもの」

- 梅山 夏夜
- チャペル タイン
- アビラ 賢侍
- 川島 さつき
- 四ヶ所 龍
- ルキマ イヴァン
- 竹内 美蘭
- シヨウセグホ デレリ タイゾウ
- 傅 瑛
- 小池 勇豪

みんな、一年間 良く頑張りました！ 色々な行事に参加し、また 平仮名・カタカナ・漢字と文法などを勉強することで 日本の大事な 文化である 言語をよりもっと知ることが出来ました。  
児童3に行ってもこの調子で頑張つてね。  
応援しています！

保護者の皆様

日々のお家でのサポート、そして様々な行事にお力を貸していただき 本当にありがとうございます。皆様と協力し合い、今年度を無事に終えられたこと とても嬉しく思っています。

「袖摺り合うも他生の縁」

こうしてお会いできたことを大切に 今後も気軽に声をかけて頂けたら幸いです。 山本 智絵



あ	も	そ	す	メ	な	に	あ
。	た	れ	。	を	ぜ	に	た
	く	か		た	な	す	し
	さ	ら		べ	ら	み	は
	ん	'		た	'	た	'
	ほ	ハ		い	ま	い	ア
	し	ブ		か	い	て	メ
	い	う		ら	日	す	の
	て	シ		て	ア	。	く

題  
アメのくに

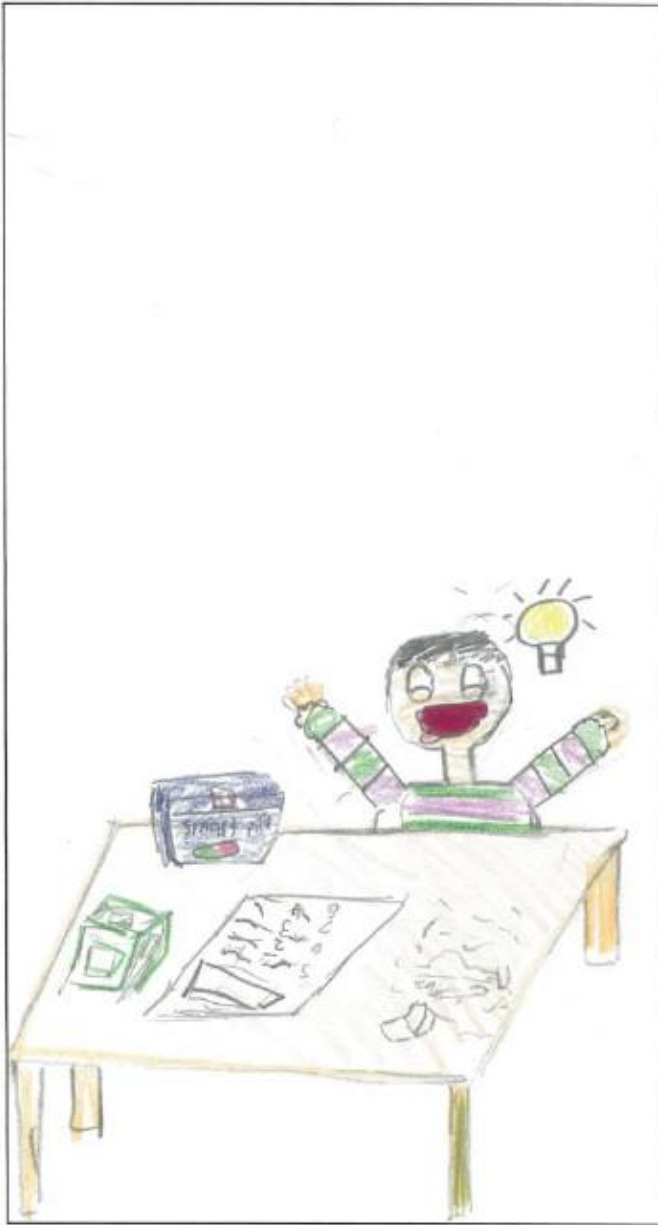
なまえ  
かが



の	と	せ	た	ま	ま	い	
も	も	ん	ら	ほ	ほ	い	わ
た	た	ぶ		う	う	な	た
し	ち	た	ほ	の	の	と	し
ま	の	し	し	つ	つ	お	か
あ	ほ	ま	い	え	え	も	あ
。	し	ず	も	か	で	の	っ
	い	。	の	あ	ず	は	た
	も	お	を	っ	。	、	ら

題  
あ、たらいいな、ん、なもの

なまえ  
チヤレル  
ティン



す	か	せ	が	す	あ	い	
	い	き		り	た	い	ほ
た	を	こ	で	ま	な	く	
い	し	う	す	を	と	が	
と	る	で		あ	も		
お	た	い	ほ	く	う	あ	
も	め	い	く	す	の		
い	に	せ	は	る	は	た	
ま	つ	い		く		ら	

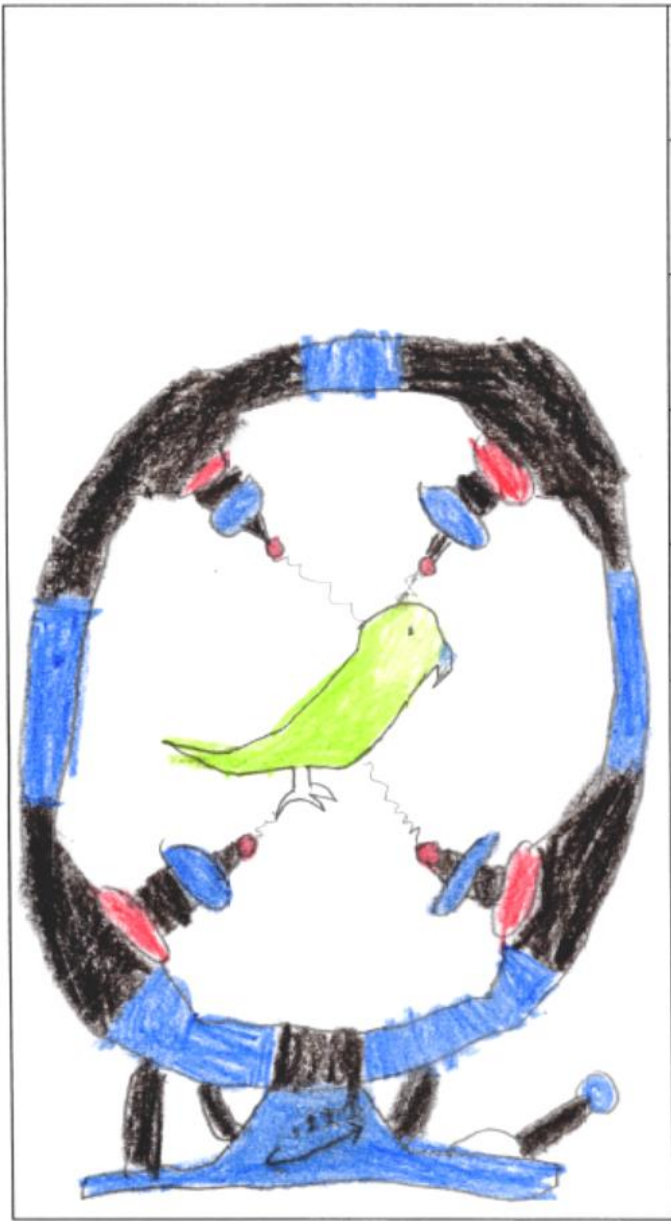
題

あたしはあそびをよくするくすり

なまえ

アビラけんじ





		い	し	ト	い	さ	ど
		。	て	の	が	を	ん
				イ	あ	が	な
				セ	ン	え	も
				中	コ	た	ら
				に	を	ら	ね
				の	大	る	も
				り	ま	へ	き
				た	く	シ	が
							ま

題

なまえ

しんがしんがしんが

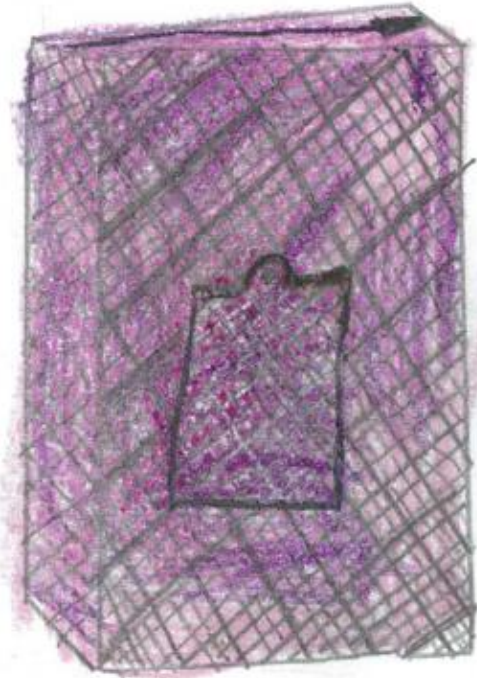
題

あったらしいもの。

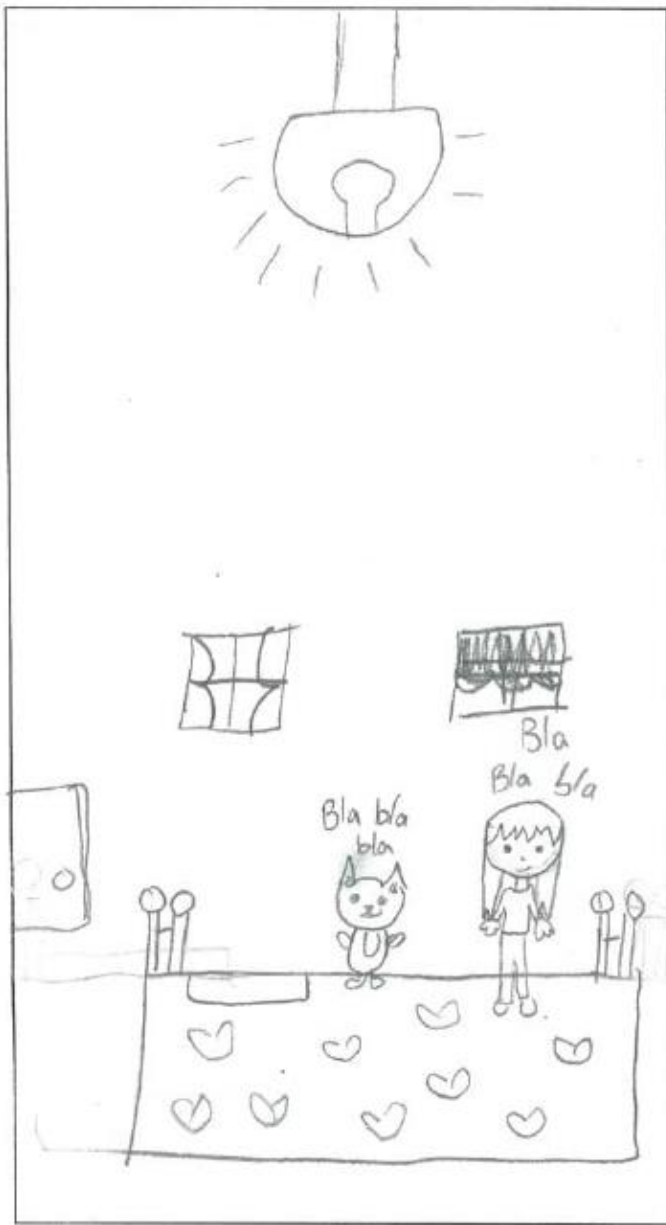
なまえ

イグアン

な	そ	ど	な	つ	そ	で	い	ぼ
れ	れ	う	い	か	れ	す	い	く
る	は	し	の	は	は	も	の	
か	て	て	で	て	て	の	あ	
ら	た	と	す	も	つ	れ	は	
で	金	い	な	か	い	た		
す	も	う		く		さ	ら	
	ち	と		な	て	い		
	に			ら	も			







す	の	し	ど	ん	お	も	
。	は	た	う	の	も	の	わ
	な	ら	ぶ	こ	う	か	た
	し	た	つ	と	も	い	し
	を	く	で	ば	の	た	か
	し	山	す	を	は	ら	、
	た	ひ	。	は	、	い	こ
	い	み	そ	な	人	い	ん
	で	つ	う	す	げ	と	な

題  
あつたらいいな

なまえ  
たけうちみらん



		う	て	ひ	た	こ
		ま	て	と	ら	ん
		に	おほ	き	り	な
		の	もう	小	い	て
		る	ち	さ	な	っ
		こ	や	小	く	ほ
		と	の	す	で	そ
			ひ	く	き	れ
			こ	な	る	は

題  
 小さくてもきさるてほう

なまえ  
 たいぞうく



	い	と	ま	友	の	ほ
	そ	お	す	だ	メ	く
	う	は	も	ち	ス	は
	で	あ	い	ほ	が	が
	す	ま	ま	く	ほ	ハ
	り	し	も	か	し	ム
	か	た	ほ	い	ス	
	ま	し	て	ご	ク	
	な	い	い	す	ー	

題  
あつたういしはごんもの

なまえ  
小池勇吉家



**児童部 3 橋口麗華先生**

じどう3のみなさんへ

橋口麗華

あつと言う間に一年がたちましたね。  
今年の日本語センターはどうでしたか？

べんきょうがちよつとむずかしくなっていたいへんだったと思いますが、毎週、イキイキとじゅぎょうにさんかしてくれましたね。

行事(ぎょうじ)でもべんきょうでも工作(こうさく)でも、何か一つ みなさんの心(こころ)にのこってくれたら うれしいです。

今年度も元氣過ぎる生徒さんに囲まれて、楽しく無事に一年を終えることが出来ました。  
アシスタントとしてサポートをしてくださったためぐみ先生、棗田先生、保護者の皆様、役員の皆様、ありがとうございました。

一年は瞬く間に

オヤルスンめぐみ

今年度は、児童2〜4のクラスをアシスタントさせて頂きました。

個性豊かな子供たちに囲まれ、毎週とても楽しくお手伝いさせて頂きました。

活気あふれる教室の中、あれよあれよという間に一年が経過し、子供達みんなと過ごせるのももう最後となりました。寂しくなります。

これからも”楽しむ心”を忘れずに、日本語に触れ、学んでいってくださいね。

微力な私をアシスタントとして温かく迎え入れてくださった先生方、保護者の皆様、役員の皆様に心から御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。





題  
今、はんがくばいに行くと

なまえ

いづくみお

今、はんがくばいに行くと、は、ハイハイ、  
およげるようになります。ですが、だから  
プールとか、およぐれ、しかも、うなぎ、  
ます、なつ、日本、行く、の、およぶ、  
よう、にな、う、じ、い、い、い、い、い、い、  
かせたいです。



題

今日はばんばんばっているよ

なまえ

うら田真ハ弥

今日はばんばんばっているのはフランス  
 語です。母は日本であまり話さず  
 ています。ケベックにきていますのでし  
 ながらバンバンばってフランス語  
 を話す人たちとコミュニケーションが  
 とれるようになります。

題

今まではがんばっていること

なまえ

竹井健治

ぼくは、スポーツをがんばって  
いきます。たとえば走ったり、

サッカーをしたり、水泳をします。  
なぜならぼくはスポーツが大スキだ  
からです。しよらりは、大スキな  
サッカーせんしゅになりたいです。







動物の先生になりたいです。♡♡♡♡♡

ます。日本が好きです。日本が好きです。

「田嶋日本語の先生です。よろしくお願いします。」

日本語をがんばっています。

題  
今日はがんばっていること

なまえ  
ゼロタイムエリス



題

人ラ、いちばんがんばっていること

なまえ

西畑シズム

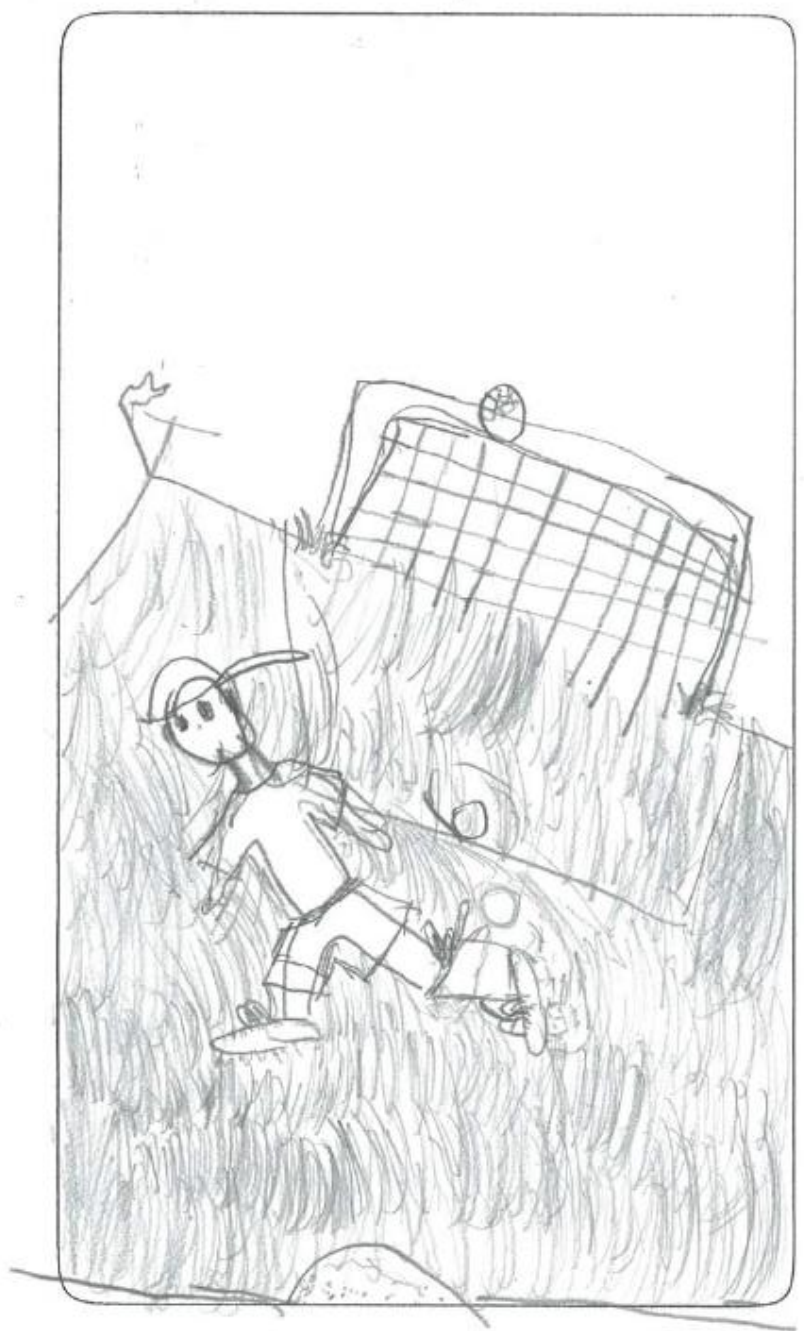
今までの人生で一番頑張っていること  
 は、大学を卒業して、海外へ出かけて、  
 海外で働くことです。海外では、  
 毎日、朝早くから夜遅くまで  
 働きます。また、海外では、  
 生活費も大変です。でも、  
 海外で働くことは、自分の  
 成長のためです。これからも  
 頑張ります。

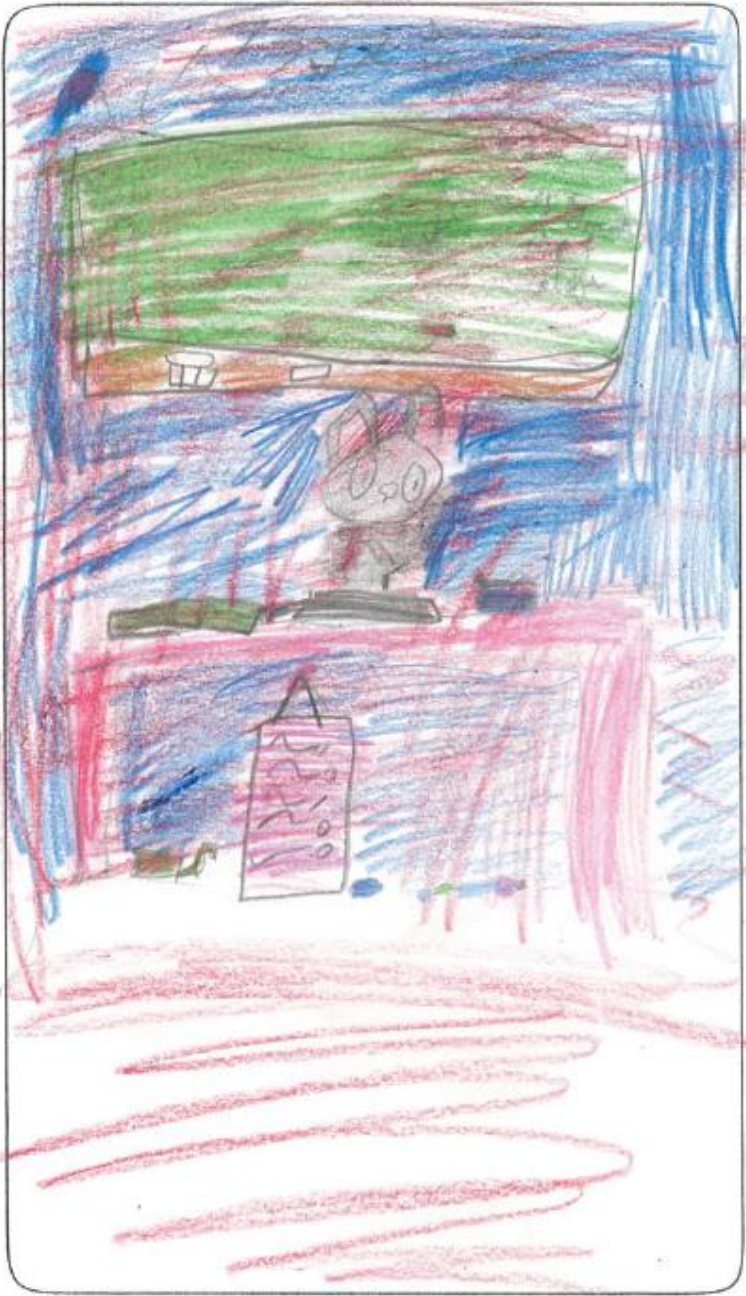
題  
サッカー

なまえ

俊青

サッカーは、ボールを蹴ってゴールに入れるゲームです。サッカーは、チームでプレイします。サッカーは、世界中で人気があります。





題  
今、はながんはっていること

なまえ

みずのまが

わたしは、はながんはっていることはフランス語です。  
 学校でたぐ山はなしをしています。わたしは、いじ  
 いちゃん、はあちがれと話したいが、です。将来フランス  
 語の本をよみたいですよ。



題  
今、一ばんがんばっていること

なまえ

江本彩夏

今一采由ががんばっていることは、フィギュアスケートです。  
 一週間に四時間レッスンがあります。冬休みもスケートをしました。わたしは、フィギュアスケートが大好きです。とくにPirouetteが楽しいです。これからもっと上手になろうと、コンペティションに出たいです。



題

今、ばんばんばっけていること

なまえ

笠井由貴

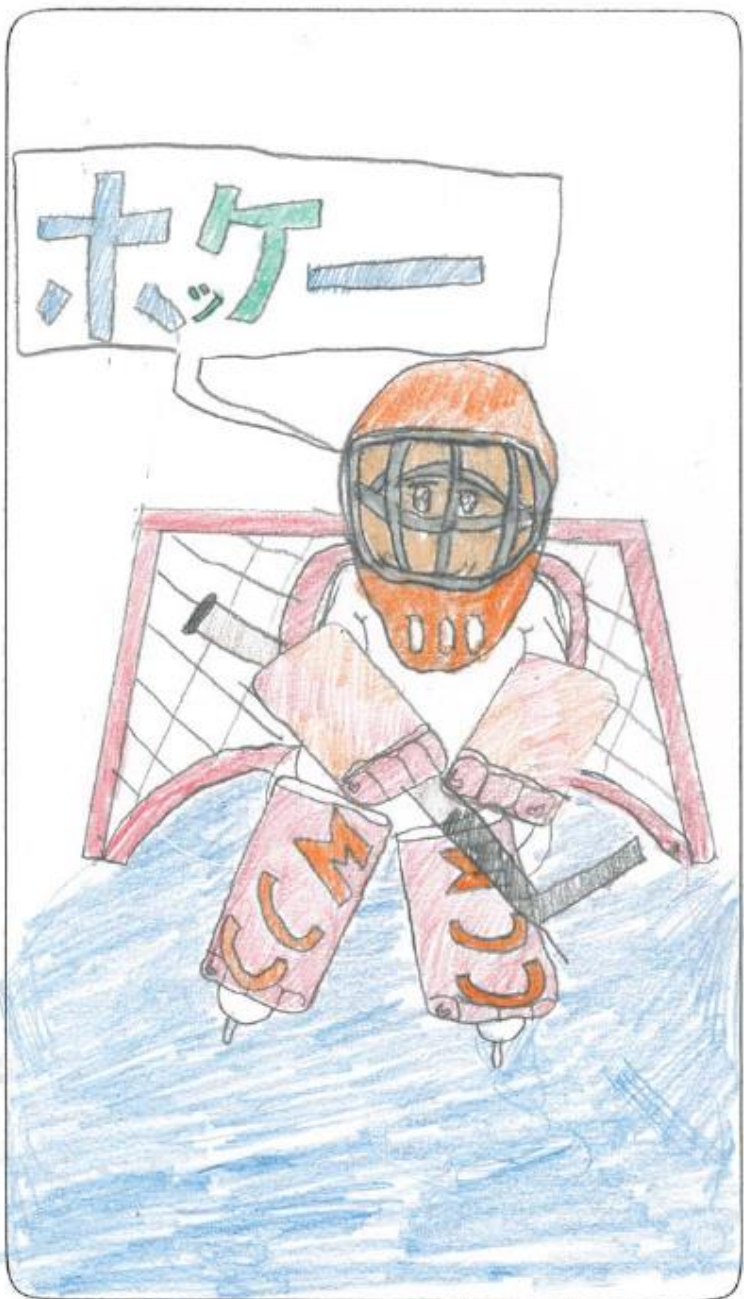
私が今一番がんばっていることはお母さんとのおやつ作りをするということです。あらゆるものをしたり、せんたくもものをたたんだり、お掃除もいろいろおもしろいことをします。

なぜなら、しごとでお母さんがいるのがいいからです。

あと、お礼のうりが上手にならなうたにのびます。

これからもおやつ作りをがんばります。😊





題

今うがんばっていること。

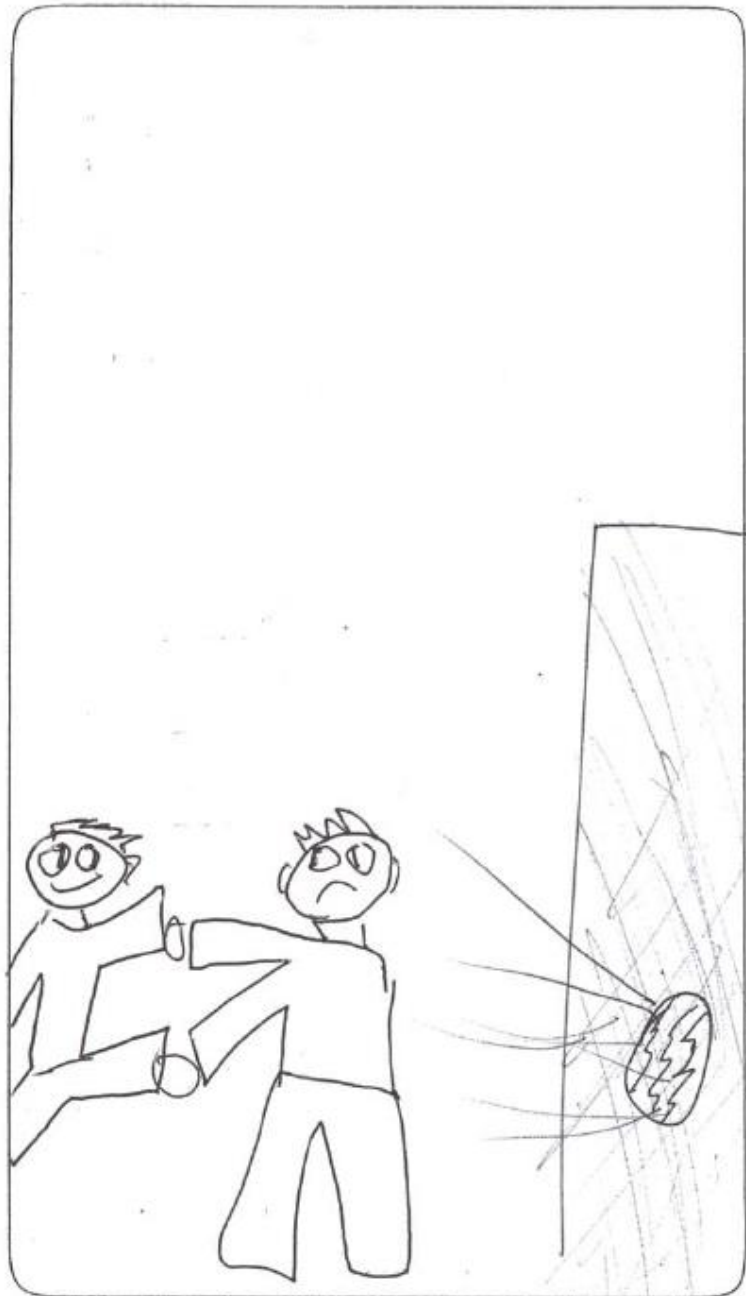
なまえ

土居健人

ぼくはこの秋からアイスホッケーを始めました。リンクで全力ですべてホックを取りにいけます。

一年間、両親におねがいをして始めたアイスホッケーなので、毎回、楽しくてしかたがありません。これからもアイスホッケーをずっと続けたいです。



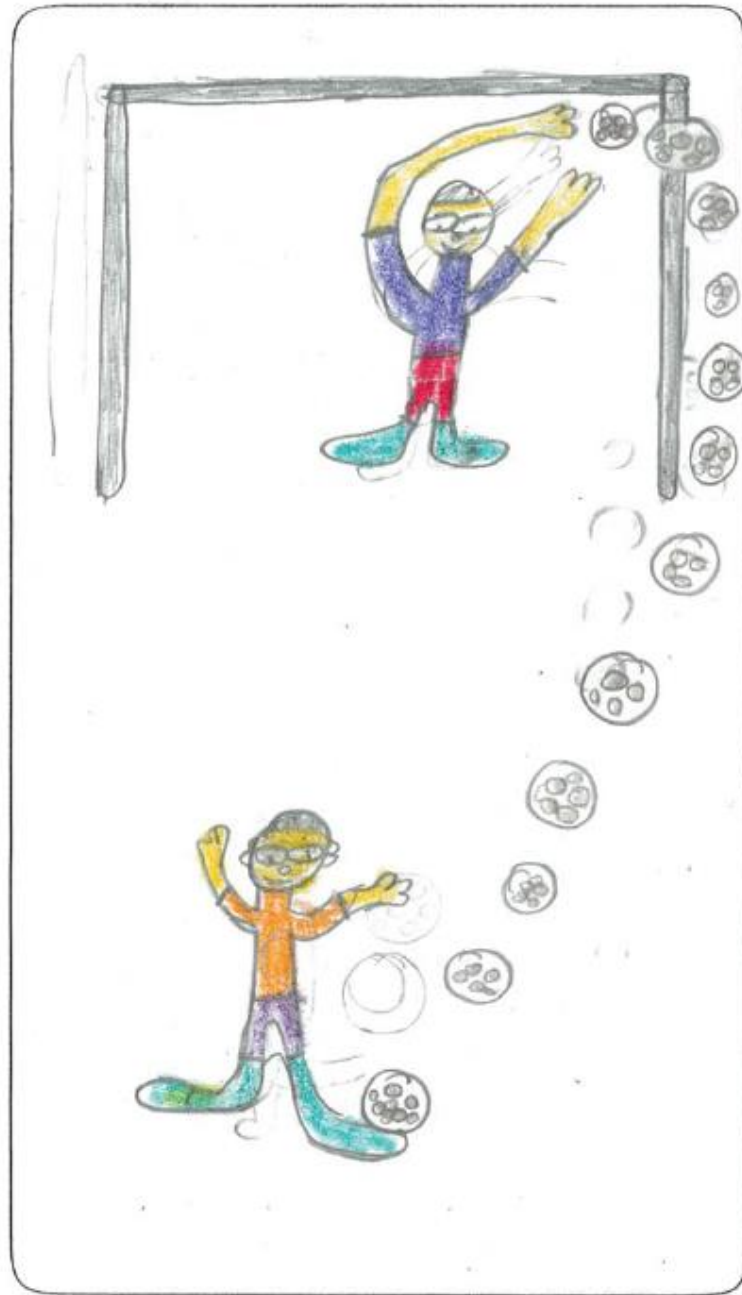


ぼくはサッカーです。学校でサッカーをあそぶので、かちたくてしょうがないです。ぼくはとってもみんなにかちたいからがんばってります。ぼくはサッカーやんしゅになりたいです。

題  
全ばんがんはといて

なまえ

中野連太郎



題

今、ぼくが一ばんがんはっていること

なまえ

ひろたみあき

今、ぼくが一ばんがんはっていることはサツ  
 カーです。雨ヨがない時は学校の休み時  
 時はサツカーさやり、土曜日の午後夕はサ  
 ツカーのれんしゅうにいきます。なぜならば一ば  
 んすきなスポーツだからです。しよらうのゆ  
 めはフランスでサツカーせんしゅうになること  
 です。



**児童部 4 渡辺 志津香 先生**

一年を振り返って

児童4 渡辺 志津香

今年も本当にあつという間の一年間でした。あれもこれも…と思っ  
ているうちに、すでに文集の季節です。

四月、元気いっぱい個性あふれる十三名でスタートです。お話しが  
大好きでおしゃべりがとまらない子、ちよつと照れ屋で発表が苦手な  
子、読みの得意な子、書き取りの苦手な子、面倒見のいい子、絵が好  
きな子。

とても仲良しなクラスです。グループ分けにしようとする、困っ  
たことにみんな一緒にやりたがります。しっかり助け合える仲間です。  
友達っていいですね。

しかし、たまに困ったさんがいて、友達同士で話していて気が抜け  
ると日本語でない言葉が…。おやおや、困りましたね。何度も何度も  
声を掛けないといけません。

今年も「本を読もう」とできるだけ毎週図書室に通い、クラス単位  
で本を貸し出してもらいました。一学期はかなりの本を読んできてく  
れましたが、二学期になると現地校や他の習い事なども忙しくなり、  
なかなか進めないようでした。しかし何よりも、忙しい中でも日本語  
の本を読もうという姿勢がすばらしく感じます。ちよつと難しそうか  
な？と思っただけでも、面白そう！の気持ち先回り。「これ借りま  
す！」と持って来る子供たちの姿。とても印象的です。是非これから  
もたくさん本を読んでいってほしいです。

最後になりましたが、色々な面でお手伝いしてくださった保護者の  
方々、役員の方々、一学期だけでしたがアシスタントのめぐみ先生、  
教員の皆さん、本当に一年間ありがとうございました。

文集テーマは『本で調べて報告しよう』です。今、みんなはどんな  
ことに興味を持ち、調べてくれるのでしょうか。楽しみます。

て	り	い	の	ら	ら	そ	に	た	ア	弾	し	生	ア				
も	よ	あ	勉	ハ	し	っ	行	ノ	い	か	ま	ソ	ー				
心	し	た	強	イ	い	ま	ッ	十	の	て	っ	れ	ハ	ヒ			ア
の	た	り	を	ド	と	よ	て	七	夫	い	た	ま	べ	ヒ			イ
中	の	は	ソ	思	う		の	オ	ま	の	し	ハ	〇				ト
か	で	時	じ	の	わ	ま	モ	時	と	し	で	た	ト	年			ア
ら	も	耳	の	で	れ	よ	ハ	か	み	た	す	ハ	に				ビ
曲	耳	か	ま	し	ま	く	ツ	れ	な	ハ	か	べ	ハ				ラ
の	ハ	聞	し	に	し	を	ア	は	さ	四	ピ	れ	ソ	ド			ハ
作	聞	こ	た	な	た	弾	ル	れ	さ	ア	の	ハ	ウ				春
曲	こ	え				く	ト	ウ	て	い	ノ	家	ド	ハ			輝
ハ	え	な	三	こ	そ	と	の		い	ハ	を	族	ハ	ヒ			
で	なく	十	作	れ	す	前	ハ	ま	ら	毎	は	ツ	ハ				
ま	く	な	さ	曲	ハ	ば	で	ソ	し	ピ	日	登	に	フ			



	す	バ	カ		百	で	う	長	こ		極			
	。 前	て	ア	上	キ	で	く	い	北		熊	ぼ		ぼ
	は	い	か	極	口	オ	す	こ	ま	極	で	く		く
	あ	ま	ラ	魚	に	ス	豆	す	熊		す	の		の
	ま	す	シ	は	も	は	ク	が	は		。 好		い	好
	り	。 な	肉	な	ニ	マ	小	他	シ		だ	き	ど	き
	使	泳	ど	食	り	・	伸	さ	の	口	か	な	う	な
	わ	ぎ	を	で	ま	五	間	い	ク	ク	ら	ど	四	ど
	な	が	つ	す	す	又	で	の	マ	マ	し	う		う
	い	と	か	。 。	。 。	ハ	は	が	よ	と	ら	ふ		飯
	で	く	ま	泳		ト	最	と	り	も	べ	つ		田
	泳	い	え	い		ル	大	く	も	言	ま	は		健
	ぎ	で	て	て		で		ち		わ	し			太
	ま	す	食	魚		ハ		上	首	れ	た	北		

	る	そい		イン	ゆ	ルス	<	た					
	く	今	う	も	カ	ル	し	は	ぼ	ス	で	カ	ホ
	だ	で	で	ス	ナ	ガ	ハ	く	も	す	す	ニ	ッ
	そ	も	す	タ	ゴ	で	ジ	ガ	す	キ	ナ	ケ	ッ
	う			ジ	イ	た	す	ド	す	キ	ワ	の	ケ
	で	が		レ	ア	い		ニ	ジ	で	ジ	の	ケ
	す	ぶ		ン	カ	ガ	い	す	ジ	は	コ		ニ
	の	ら		カ	ズ	キ	ね	と		ト	レ	い	つ
		れ		ツ	は	で	の	ク	あ	ン	カ	が	心
		て		ブ	す	プ	ロ	も		の	ナ	あ	木
		い		で	ニ		し	ス	う	キ	デ	ら	こ
		な		が	ナ		イ	ビ	せ	ヤ	テ	ベ	太
		い		ッ	四		ス	ン	ん	ヒ	ア	ま	陽
		キ		ナ	カ		タ	セ	し	タ	ン	ほ	ッ



症	う	か	ピ	で	ど	ツ	一	物	か	ギ	な	つ					
材	次	で	ん	い	す	レ	番	ア	ピ	調	い	せ	り	私			
に	に	す	に	ナ	〇	本	と	お	レ	い	ベ	が	な	こ	は	ピ	
う	ピ	〇	反	ツ	こ	当	り	ど	ル	ナ	て	あ	ら	調	ピ	い	
し	い		の	ツ	の	は	う	ろ	ギ	ツ	み	る	私	ベ	い	ナ	
て	ナ		う	た	ア	ピ	名	り	い	ツ	ま	の	は	る	ナ	ツ	
調	ツ		す	ん	レ	い	前	た	の	ア	レ	で	ピ	こ	ツ	四	ツ
ベ	ツ		る	ば	ル	ナ	が	こ	ー	レ	た	レ	い	と	ツ	年	ア
ま	ア		の	く	ギ	ツ	つ	と	つ	ル	〇	ど	ナ	に	ア	生	レ
し	し		で	し	い	ツ	れ	は	で	ギ		う	ツ	し	レ		ル
た	ル		起	つ	は	は	て	レ	す	い		し	ツ	ま	ル	坂	ギ
〇	ギ		こ	に	レ	豆	れ	レ	〇	は		て	ア	し	ギ	本	い
ま	い		る	ひ	体	る	る	ナ	私	レ		な	レ	た	い	幸	
ち	の		そ	ん	か	り	け	ツ	が	食		の	ル	〇	に	穂	

に	め	り	ら	か	し	う	ん	か	な	す	も	ひ	は	間	が
き	反	ん	が	れ	る	で	が	す	る	毎	る	あ	ど	き	以
い	の	え	清	こ	こ	す	ピ	ダ	子	年	の	り	い	け	内
後	う	き	け	い	い	い	人	ど	ピ	グ	ま	場	に	ピ	
に	し	か	つ	る	ま	に	い	す	の	も	い	話	す	合	げ
	こ	が	に	の	せ	な	ま	ツ	や	め	す	は	り	じ	す
こ	し	弱	な	は	ん	る	だ	ツ	く	数	ツ	く	私	死	ん
の	ま	く	り	が	本	に	ア	ー	は	ツ	な	の	ん	な	ま
ピ	う	な	す	私	さ	ピ	レ	パ	、	ア	リ	場	で	ど	し
い	そ	り	ぎ	た	今	の	い	ル	い	え	し	ま	合	し	が
す	う	こ	ち	一	理	す	セ	こ	ル	す	は	ま	あ	べ	
ツ	こ	が	の	番	由	ツ	い	ン	い	ギ	い	う	ソ	せ	こ
ツ	す	び	体	ま	信	は	ツ	だ	ト	ま	い	き	こ	ま	き
ア	ん	の	あ	れ	あ	ア	そ	の	す	に		を	と	す	時

									し	私	が	ト	大	起	を	ど	し
									い	の	な	の	人	さ	食	う	ル
									て	ア	く	人	に	な	べ	し	が
									す	↓	な	は	な	い	て	て	い
									°	ル	る	ピ	る	か	も	私	に
									が	こ	い	と	わ	ア	が	つ	
									い	と	ナ	や	か	し	ど	い	
									も	も	ッ	く	リ	ル	ん	て	
									な	あ	ツ	ニ	ま	が	な	言	周
									く	が	ア	十	し	い	べ		
									な	り	レ	パ	た	反	ナ	て	
									っ	ま	ル	い	°	の	ッ	る	
									て	し	が	セ	ま	う	ッ	こ	
									ぼ	た	い	ン	た	を	し		

			う	ら	し	や	ト	も	ま	わ	た	ん	し	ケ	レ	た	
			は	ら	を	こ	ル	ら	し	た	い	と	た	モ	オ	り	
			お	回	た	う	、	の	た	し	か	ゆ	。	ド	パ		
			す	た	べ	せ	西	か	。	は	ら	う	そ	キ	ド	レ	
			が	ま	る	り	ア	か	し	イ	で	な	れ	を	ケ	オ	
			29	ご	。	ア	シ	ま	オ	ン	う	ま	は	し	コ	スパ	
			年	を	め	コ	ア	ア	パ	ク	。	え	、	ら	ウ	アド	
			め	う	す	オ	に	18	ド	ネ		の	う	ベ	ヒ	レ	ケ
			す	む	は	ロ	キ	1	ケ	ツ		と	ち	る	コ	ス	コ
			は	。	1	キ	ん	25	ツ	ト		カ	で	こ	ウ		ウ
			22	じ	年	や	ア	セ	コ	ア		ケ	ゴ	と	モ	か	
			年	ハ	リ	リ	リ	ン	う	し		を	マ	に	ン	お	
			。	ス	1	も	る	チ	は	ら		カ	ら	し	ト	る	
				よ	が	む	。	ナ	ヤ	ベ		ツ	マ	ま	カ		

	た	は	怒	人	ら	ん		し	ッ	い	百	と	な		の		
で	め		り	が	す	の	じ	た	ト	ま	ハ	が	し	セ		は	じ
は	た	人	の	も	こ	う	よ	。	き	し	回	ど	の	フ	見	な	よ
	な	間	こ	と	の	や		つ	た	な	出	中	夕	童	せ	や	
な	ら	の	と	こ	ど	か	の		か	ら	て	に	一	四	か	の	
せ	し	ほ	ど	い	す	ず	か		つ	な	あ	き		で	?	か	
百	ま	ん	ち	る	。	だ	ね		て	の	の	た	じ	べ	子		ね
ハ	ち	の	。	百	ほ	け	ほ			で	か	の	よ	ん	ヤ		を
回		う	じ	ハ	ん	寺			し		知	ど	や	き	ペ		百
な		を	よ	つ	の	の	百		ら	イ	リ		の	よ	ル		ハ
の		打	や	の	う	か	ハ		ベ	フ	た	ど	が	う	フ		回
で		ち	の	よ	と	ね	つ		て	月	い	う	ね	し	ラ		な
し		け	か	く	は	を	の		み	一	と	し	の	た	フ		ら
よ		あ	ね	や		な	ほ		ま	ネ	鬼	て	こ	は	ッ		す

					も	の		と	未	一	一	六	回	の	と	う
					お	ご	こ	い	来	淨	×	感	び	が	そ	か
					も	ん	う	う	し	、	感	一	す	、	の	う
					し	と	や	も		染	情	眼		六	中	の
					ろ	う	、	の		一	一	、	そ	×	で	説
					い	を	こ	で		×	好	耳	の	三	も	が
					と	知	調	す		時	、	、	計	×	、	あ
					鬼	る	バ	。		間	悪	鼻	と	二	も	い
					い	こ	こ			一	、	、	ん	×	、	ま
					ま	と	み			過	平	舌	の	三	と	す
					し	は	る			去	一	、	い	は	そ	。
					た	、	と			、	×	身	み	、	有	は
					。	と	日			現	状	、	は	百	わ	、
					て	本				在	態	意	、	ハ	な	、

	な	ん	き	る	と	き	海		調	日	お	ん	た	か		の	
こ	と	そ	た	し		に	に	ま	べ	本	か	で		ら	は	か	
の	が		か	お	て	と	な	ず	て	大	ら	い	な	い	じ		
よ	ふ	ナ	ら	を		中	か		み	百	か	る	ぜ	の	め		な
う	く	ト	で		そ	に	れ	雨	ま	か		と	な	か	に		ぜ
に	ま	リ	す	い	の	あ	て	が	し	全	た	き	ら	調			海
	れ	ウ			中	る	行	ふ	た	書	か	口		べ	な		の
地	ま	ム	岩	し	に	岩	き			で	ら	に	日	る	ぜ	山	水
き	す		の		ふ	な	ま	て		海	で	入	本	こ	海	し	は
		カ	中	に	く	ど	す	川		水	す		の	と	の	ろ	し
う		ル	に	は	ま	を		が		に		た	海	に	水		お
が		ジ	は	こ	れ	け	そ	で		つ	そ	水	で	し	は	れ	か
で		ウ		ん	て	ず	の	き		い	こ	か	あ	ま	し	い	ら
き		ム	え	で	い	り	と			て	で	し	そ	し	お	ら	い

																			前	海	雨	
																			へ	か	に	が
																			さ	ら	は	ふ
																			ん	こ	こ	つ
																			こ	づ	ぶ	て
																	日	う	い	の	川	
																	本	✓	て	は	に	
																	山	大	い	四	な	
																	し	百	ま	十	リ	
																	ろ	か	す	お	岩	
																		全	く	の		
																		書	年	じ		
																			い	お		
																			ら	上	を	



グ	モ	い	た	も	リ	チ	け	わ	ど	し	も	い	ム	こ		
し	の	い	ら	う	ユ	ど	い	う	し	い	ズ	と	今			ク
一	あ	か	ち	ク	ム	れ	も	つ	任	い	書	は				レ
ズ	と	お	ツ	ク	ム	れ	も	つ	任	い	書	は				イ
は	を	サ	ズ	た	の	や	れ	で	一	小	き					チ
ピ	グ	書	一	と	は	け	を	ま	す	ム	さ	ま	ク			
か	し	い	ピ	か	ク	で	い	た	す	ズ	い	す	レ			一
ピ	一	て	一	わ	に	ツ	は	ろ	べ	お	で	自	イ			ム
か	ズ	も	で	い	も	ホ	い	も	小	友	す	分	ク	チ		ズ
す	を	い	小	く	つ	エ	り	ろ	の	さ	た	が	レ	榎		に
る	つ	い	さ	し	け	り	ま	任	な	い	ち	と	任	イ	一	本
よ	け	で	な	た	れ	一	せ	れ	ど	本	と	て	る	チ	ム	い
う	ま	す	か	か	ま	と	ん	ま	め	い	も	か	ズ	想		て
に	す	わ	す	か	す	か	や	お	わ	一	の	良				

も	と	②		い	①	分	て	た	な		は	ば	題
の	も	海		る	海	が	み	鬼	た	つ	じ	い	名
が	と	の		が	の		る	い	と	体	め	の	
り	り	水		ら	木	た	こ	出	き	み	に		海
く	く	に		の		こ	と	が	に	に			の
に	ち	と		中		と	に	あ	と	海			水
ふ	の	け		に			し	る	こ	の		う	は
	出	こ		は			た	の	も	木		り	ど
た	の	い		し			こ	し	を		ル		う
雨	中	る		あ			今	よ	の				し
が	に	し		が			目	ん			う		こ
川	あ	お		と			し	ば	で		オ		し
と		は		け			ら	が	し				こ
な	た	も		て			べ		ま				こ

	リ	人	と	る	海	糸		び	い	③		ん	れ	を	っ
	し	れ	き	こ	の	わ		っ	こ	じ	土	だ	こ	け	こ
	ま	た	に	と	し	り		ご	り	よ	き	も	い	ず	海
	し	と	海	が	お	に		け	く	う	ハ	の	る	り	に
	た	鬼	の	わ	は			こ	に	り	う	。	し	と	な
	。	。	中	が	り			い	あ	く	が		お	。	が
			こ	に	た	く		る	る	に	で		を	こ	れ
			い	だ	。	地		の	し	ふ	き		い	そ	る
			た	れ	ぼ	が		で	お	る	こ		。	の	と
			の	か	く	う		す	を	雨	4		し	中	き
			で	が	は	流		。	海	は	0		。	に	に
			び	し	小	れ			に	川	お		に	ふ	岩
			。	お	さ	こ			は	と	く		は	く	な
			く	を	い	い			こ	な	年		こ	ま	ど

																		ヒ
																		ッ
																		ガ
																		ッ
																		タ
																		サ
																		イ
																		ト
																		キ
																		ィ
																		ド
																		ス
																		ク
																		エ

あ	て	の		あ	り	し	空	か	し	ぬ	て	に	あ			
こ	い	は	ま	か	ま	ま	気	ら	た	れ	本	み	気	る	あ	
て	ま		た	り	に	う	を	で	を	て	に	る	が	時	た	
い	す	病		に	お	と	す	す	出	い	よ	こ	つ		し	犬
る		気	犬	く	い		い		し	る	る	と	き	犬	は	犬
時	病	の	の	く	が	に	こ	な	て	の	と	に		の		犬
や	気	し	鼻	な	ど	お	み	ぜ	自	は		し	な	鼻	犬	犬
	で	る	が	る	こ	い		な	分		犬	ま	ぜ	が	を	犬
目	な	し	か	か	か	を	鼻	ら	で	犬	の	し	か	ぬ	力	犬
を	く	だ	あ	ら	ら	か	も		な	が	鼻	た	と	れ	松	み
き	て	と	い	で	来	ぎ	か	か	め	と	が		思	て	て	井
ま	も	言	て	す	る	分	あ	あ	て	き	い		い	い	い	
し		あ	い		か	け	い	い	い	ど	つ		調	る	ま	理
で	ね	れ	る		が	た	て	た	る	き	も		べ	の	ま	武

											べ	犬	と		の	す
											た	に	て	あ	で	ぐ
											い	つ	も	た	か	の
											と	い	よ	し	あ	時
											思	て	か	は	い	は
											い	い	こ		て	
											ま	る	た	こ	い	鼻
											し	い	と	の	ま	を
											た	る	思	こ	す	な
											。	な	い	と	。	め
												こ		を		て
												と	も	調		い
												を	こ	げ		な
												調	と	て		い

い	つ	も	み	ど	は	か	そ	る	う		が	ど	な				
。	け	栄	だ			り	目	よ	化	玉	出	う	み	わ			
	す	よ	が	水	水	ま	や	う	ア	ね	る	し	だ	た			
	ぎ	う	出	に	に	し	鼻	ど	り	ぎ	の	こ	が	し			玉
	な	も	な	つ	と	た	を	す	ル	を	か	玉	出	が			ね
	い	と	く	け	け	。	し	。	レ	切	調	ね	こ	玉			児
	よ	け	な	こ	る	ッ	げ	そ	と	ッ	べ	ぎ	き	ね			童
	う	出	る	切	性	り	き	れ	言	た	こ	も	ま	ぎ			四
	に	す	よ	る	し	ゆ	す	が	う	と	み	切	し	も			
	し	の	う	と	つ	う	る	空	物	き	ま	る	た	切			扇
	こ	で	で	あ	が	化	こ	気	し	に	し	と	。	ッ			谷
	く		す	ま	あ	ア	と	に	つ	ッ	た	な	そ	こ			
	だ	水	。	り	る	り	が	ま	が	り	。	み	こ	た			玲
	さ	に	で	な	の	ル	分	ざ	出	ゆ		だ	で	時			良



**児童部 5 木下直子先生**



今年度のお題は「挑戦したいこと」です。誰もが何かそれぞれに目標を持って、そのために行っていることがあると思います。身近なことから将来に渡ること、5年生で自分が何を目標に、そしてそれについてどう思っていたのか、彼らがまた大人になり振り返ることがあればよいと思います。

大人世界では、毎日がいろんな小さな挑戦や選択ですが、あえて「よーし」と気合を入れて、自分で目標を設定し取り組むことが薄れていくものだなと感じました。挑戦というよりは、取り組んでいることというのは日々溢れているのですが。ただ何か困難な状況に陥った時に、やるかやらないかという選択肢を迫られた時は、挑戦するという選択肢を取りたいです。

今年も楽しく面白いクラスで、どんなに疲れていても、彼らの笑顔と純粋な言葉のやり取りに毎回癒されました。見送った生徒たちを時々廊下で見かけたり、彼らの成長を他の先生や保護者の方から聞くのも喜びです。これからもそんな彼らの背中を見届けていきたいです。

センターで継承語教育に携わるようになって、約十年近く経ちました。その間にセンターという組織も人口が増えて様々なことが変わっていき、時代に合わせてその時々々の保護者や教員が試行錯誤で運営してきました。そしてこれからもまだまだ変革を求められることがあると思います。

なぜ自分が教員を続けているのか原点に返った時、それは自分が何かを未来に伝えたいのだと思います。継承するのは日本の行事であったり、習慣であったり、言語そのものであったり。特に言語の中には様々な日本の情報が詰まっています、そこから開く扉がたくさんあります。

センターでの時間は短く、とてもその中で伝え切れるようなものではないと思います。伝えたい直後に花開くのではなく、親も教師も彼らの中に、いつか咲くかもしれない苗を植えているようなものだと思います。手取り足取り他者がお世話をしてしまっただけでは、自分でどう咲かせて良いかわからないこともあると思います。いったん放置してしまっただけで枯れてしまったり咲きません。でもその場合でも根っこは残ります。自分がまた咲かせようと思ったら、時間はかかるかもしれないですが、きっと花が咲くでしょう。そんな見送り、引き継ぎのような作業を何年も重ねています。

毎年出会う子どもたちは、保護者の方や他の先生方に大事に育てられ、私のクラスに来た時に、それが生かされるよう、次に向かっていくステップとなるよう心がけています。

今年度も気持ち良く教壇に立てていたのも、役員並びに保護者の皆様一人ひとりの支えによるものです。皆様の貴重な時間をいただき、センターで教員をさせていただいています。この場を借りましてお礼申し上げます。

これがらちうせんしたいこと  
じどう五 秋山 沙四維  
わたしは、絵をかくことが好きです。これ  
からは、もつと絵を上手にかけるようになっ  
て、ほかのアーティストにもちうせんしたいです。  
わたしは、秋にセカンダリースクールのオ  
ーブンハウスに行つて、アーティストのクラスを見  
学しました。そのクラスの学生の作品は、絵  
だけではなく、しびしん、アニメーション、  
ちうごくや3Dアートなどがありました。  
いろいろな作品を見て、先生の話聞いて  
セカンダリーでは、アーティストをとりだ  
いと思ひました。でも、そのコースに入ひる  
ためには、デッサンのテストがあります。そ  
のテストにうかるために、デッサンが上手に  
なりたひです。  
ゲームのキャラクターがすきて、二年前が  
ら、マンガがわがいています。でも、他のア  
トについて、遅一回の四エでしかしりませ  
ん。だから、セカンダリーのアーティストのコース

20×20





これからちようせいしたいこと

児童五 小野 直直

私かこれだからちようせいしたいことはいペニ

ーです。

ペニーとは、小さいスケートボードのこと

です。たせ、ちようせいしたいかというこ

まず楽しそうだからです。お姉さんや友だち

かやっていたのを見たことがありません。そし

てウリススアレンセントにお父さんとおば

あちゃんからもらってたからです。黄色で、口

ーにが四色ちがう色でもかわいいです。

ペニーをするためには、外に雪がなくた

て、ヘルメットを用意することがひつよう

です。また、いまビニが、ヘルメットがな

いところなんだ時大げかをするかもしれ

ません。さいしょは、公園でりんしゅうし

まです。意は

車が通るのでそこわいで

、ペニーをすることによって、外に出ること

かゝります。家にいると、ゲームをしたり、

テレビを見てばかりしてしまいます。



ちようせんしたいこと

サーファロフ

ぼくのちようせんしたいことは、今年の夏に平およぎが25メートルかんづきおよげるようになることです。そして日本に行つたとき小学校のプールじゅぎょうでけんていがあるほくは水えいきようしつに行つてません。日本の小学校だけでなら、たおよげるようになりました。昨年もおよぎが、てクロールはおよげるようになりました。

昨年もおよぎが、てクロールは、

うかりませんでした。今年こそうかりたいお近づきのプールにもたんとさんれんしゅうしお行きたいと願つてます。そこでおよぎをおしえてくれるおれいさんがいます。前にもおよぎをおしえてもらつたことがありましたが、おごくうまくおよげるようになりませんでした。およぎが、てプールにおよぎ。およぎのようになりたいです。

ける	こ	の	よう	い	決	めた	こと	を	かん	び	つ	づ	か	ら	ち	よ	う	せん	した	い	こと
か	と	と	も	大	切	で	大	き	な	つ	て	か	ら	ち	よ	う	せん	した	い	こと	

20×20





これから挑戦したいこと

児童五 山口 大貴

ぼくは柔道の大会で一位をとることをちやうせんしたりです。

なぜなら、今まで大会で二位と三位をとる  
ことができませんでした。でもまだ一位をとる。たこ

一位をとるために、柔道の練習を休まずに  
さんがれています。

ちやうせんすることによって、じぶんは  
しんがのき、大会で勝てるようになった。こ、お  
もしろくなると思っています。最後に黒帯がと  
るまで、柔道のつぎをたらしたいなと曲べり  
ます。



ぼくは、スポーツとサッカーをや  
 ているのよ、いいよ、お金がかかるから  
 す。もしごきこも、時間が足りません。ご  
 もしごきわら、ぼくは、グリーリーになりた  
 い。ぼくは、ホッケーがきなくこ  
 へど、スポーツとサッカーがきなくこ  
 す。くうねいし、幸せだと思  
 います。

20x20

ぼくが今、ちやうせんしたいこと

山本

理央

ぼくが今、ちやうせんしたいことは、スキ

ーです。去年からスノーボードを始めたばかり

りのなでまだまだたくさん練習しないといけ

ないのですが、こんどはせひスキーにもちや

うせんしたいです。オリンピックの時に見た

アルペンスキーは、スピードもはやくとても

気持ちよさそうだが、たのびや、てみたくなり

ました。ぼくの友たちはスキーをするのです

が、いつしよに行こうとさそわれているので

その時にスキーができるところを見せられた

らいいなと思っ、ています。

これからちやうせんしたいこと

橋元海咲

わたしはなまけ者なので、ちやうせんしたいことがありません。

しかし、今は「ハンガーゲーム」を読み始めなので三冊全部を読みおえたようです。今日は二カ人をかりました。



**児童部 6 江本 昌子 先生**

## 一年を振り返って

児童6 江本昌子

今年度の児童6は男の子ばかりの少人数クラス。人数は少なくてもクラスの賑やかさは他のクラスには負けないと思います。みんなおしゃべりが大好きで、明るく元気いっぱい。まず、時計の針が十時をまわったら「授業始めようよー」の一声から始まります。朝の挨拶のあとは「先生、朝ご飯食べたの？ ぼくはね…」「あれ、あの言葉何だっけ？」「先生、このプリントは簡単すぎるよ」「漢字テストの勉強してきたよ！」「今日はね、センターの後、友達の家に行くんだ。」「あ、ぼく、これ言いたい。あのね、日本で黄色い新幹線を見たんだよ！」「先生、お腹空いた…」「こんな感じで、常に会話が飛び交っているクラスです。

今年はず段の日本語学習に加え、言葉やことわざ・慣用語などのクロスワードやパズルを取り扱いました。例えば、『そっくりであることを何という？』『○○二つ』『○○に入る言葉をパズルからさがしてみよう！』などです。なぞなぞや○×クイズもみんなで競い合いながら答えを見つけましたね。どんな課題にも、いつも積極的に取り組んでくれました。

また、図書係さんがクラス単位で本の貸し出しをしてくださることに、毎回のよう図書の本を借りに行きました。みんなかなりの冊数を読んだのではないかと思います。お気に入りの本は見つかりましたか？

それから、今年ばかりキュラムに算数を導入しました。センターで算数の教科書を開くのは初めてだったかもしれません。主に教科書とプリント教材を使いながら、文章問題を読んで式をたてたりグラフや表を読み取ったりと、今までとは少し違った角度から日本語を学習しました。みんなと算数を勉強するものとても楽しかったです。

児童6の文集は例年同様、自由課題で書いてもらいました。それぞれの個性が出ていて、しっかりと書いており、とてもいい作品に仕上がっています。

最後になりましたが、保護者の皆様、ご家庭でのサポートや授業、各行事へのご協力など、本当にありがとうございました。皆様に支えていただき、お子さん達とよい時間を過ごさせていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。また、役員さん方、同僚の先生方、今年も大変お世話になりました。ありがとうございました。





																こ	も	て								し		読
																い	し	い	ぼ							い	江	人
																ま	ろ	ま	く						勉	本	で	
																す	い	す	の						強	先	い	
																。	マ	。	ク						を	生	ま	
																	と	ぼ	ラ						も	は	あ	
																を	く	ス							。	。	。	
																言	の	は								て	し	
																。	ク	い								き	い	
																を	ラ	っ								て	先	
																り	ス	も								く	生	
																。	は	楽								れ	で	
																か	レ									ま	、	
																。	レ	く								す	い	
																を	っ	、								。	っ	
																り	も	笑									も	
																し	お	っ									。	楽

食	が	時	し	晴	も	こ	こ	れ	方	た	き	し	と	ヨ		グ	た	カ					
べ	な	に	た	れ	き	は	見	い	ま	く	よ	ス	い	ー	ぼ	を	ナ	き					カ
て	リ	と	て	れ	な	え	な	で	山	リ	は	う	ホ	く	し	そ	デ	よ					ナ
	だ	っ	湖	い	い	く	る	夕	の	の	も	ハ	ー	ガ	ま	こ	1	年					デ
レ	し	せ	の	た	こ		た	カ	ぼ	岩	長	た	イ	国	ー	し	で	ア	の				イ
イ	ま	ん	よ	け	し	青	く	カ		と	く	く	キ	立	ば	た	た	ソ	夏				ア
シ	し	ビ	こ	ど	た	カ	山	ウ	た	氷	て	山	ソ	公	ん		く	ロ					ソ
ジ	た	よ	ど			緑	の	滝	時	河	大	の	グ	園	好		山	ッ	家				ロ
	ウ	あ	だ	天	の	氷	か		か	へ	急	コ	に	ま		キ	キ	ぞ					ッ
ケ	い	ガ	舟	ん	気	色	河	見	と	あ	ん	な	ー	あ	な		キ	キ	く				キ
ッ	そ	小	当	だ	は	ガ	は	え	お	り	で	登	ス	る	ハ		ソ	に	で				ー
ト	い	っ	を	ん		ま		ま	く	ま	し	リ	ど	ア	イ		プ	行	ニ				松
を	こ	て	食	雲	さ	が	色	し	に	し	た	坂	す	イ	キ		と	っ	し				尾
き	お	来	べ		い	っ	ガ	た	す	た		ガ		ス	ソ		ハ	て	っ				鬼
ま	舟	て	て	て	し	こ	魚		ご		そ	あ	そ	ラ	グ		イ	来	う				
し	当		い	き	よ	と	だ	と	く	上	こ		の	ハ			キ	ま	か				
た	を	雷	る	ま	は	て	け	中	き	の	は	て	コ	ソ			ソ	し	ン				

										ハ	が	む	ン	ど		し	こ	も	雨	夕	し	ご	そ
										イ	楽	ず	グ		ほ	た	了	お	に	1	か	体	の
										キ	し	か	が	ぼ	か		に	り	か	ン	た	に	ひ
										ン	か	し	-	く	に		つ	る	わ	あ	か	あ	よ
										グ		く	ば	は	も		い	の		る	な	た	う
										も	た	て	ン	こ	た		た	は	こ	こ	い		は
										ず	か		好	の	く		時	か	み	と	の	こ	
											ら	ひ	ま	ア	山		に	ン	ン	に	ご	と	大
										と	ご	よ	ご	イ	ハ		は	た	な	し	す	こ	き
										忘	す	ら	し	ス	イ			ン	ぬ	ま	す	も	な
										れ		が	た	ラ	キ		雨	で	れ	し	む	い	サ
											ま	ほ	ふ	イ	ン		は	し	ち	た	の	た	イ
										せ	く		な	ン	グ		や	た			を	か	ズ
										お	ん	は	て	せ	の	を	ン			ひ	や		だ
									わ				ま	な	ハ	し	で	車	た	よ	め	た	
									り		こ	た	ら	イ	た		い	の		う	こ	ご	た
											の	の		キ	け		ま	と	下	が	ウ	す	の

し	と	に	一	み	人	全	ん	面	私	の	担	ド	教	ど	ま	り	め	う	種			
た	ド	お	枚	ん	の	冒	な	な	が	先	任	ア	室	ん	し	ま	は	の	類	こ		こ
	ア	が	の	な	形	名	名	の	今	生	の	が	の	よ	よ	す	怪	怖	が	の		お
み	が	紙	い	の	を	乗	で	日	で	山	が	生	り	う		談	い	あ	世		い	
ん	開	乙	の	す	紙	告	ら	み	こ	し	口	ラ	徒	と		こ	や	話	り	に	話	
なく	飛	人	か	を	げ	せ	ん	の	た	先		た	し	名	う	都	の	ま	は			
と	と	ん	を	ら	落	終	な	な	ク		生	と	ち	た	前	い	市	種	す	こ	ル	
う	担	で	投	こ	と	お	が	名	ラ	今	で	開	は	く		う	伝	類		お	キ	
し	仕	い	げ	ろ	し	る	ら	乗	ス	日	は	い	先	も	と	話	説	を	こ	い	マ	
た	の	き	る	げ	ま	と	名		を	先	な	乙	生	り	い	の	な	紹	こ	話		
の	山	ま	と	落	し	男	前	乙	担	生	く	入	を	空	う	一	ど	介	で	に	ア	
?	口	し	女	ち	た	は	を	く	当	は	気		待	の	話	つ	の	し	は	は	ア	
お	先	た	の	た		た	書	だ	す	休	味	乙		日	で	を	怪	ま	そ	い	テ	
な	生		す	の	す	く	き	さ	る	み	の	き	乙	で	す	お	奇	す	の	く		
た	が	が	が	で	る	さ	ま	い		な	悪	た	い	し		話	話		内	つ	ン	
は	い	ラ	か	す	と	ん	し	し	初	の	い	の	ま	た	あ	し	が	一	の	も		
だ	ま		で			の	た	み	対	で	男	は	す		る	し	あ	つ	エ	の		

	え	た	ん	に	た	ま	が	体	お	に	の	こ	親	す	の	の	さ	マ	も	ち	れ
	く	い	怖	く	し	ら	験	使	有	な	い	ね	や	怖	考	き	マ	た	よ	で	
	だ	で	あ	い	さ	た	談	い	効	ら	い	先	子	い	え	ま	ッ	ち	先	す	
	さ	す	な	話	ん	白	で	く	な	こ	話	生	ど	話	る	し	と	は	生	か	
	い	か	た	は	の	ふ	い	す	だ	手	の	し	な	も	は	怖	た	書	凍	!	
	!	?	は	怪	計	く	大	さ	段	話	も	ど	た	よ	い	き	リ	担	自		
		い	ど	談	算	ろ	き	あ	い	で	は	あ	か	ち	く	話	こ	人	付	任	分
			つ	な	ド	を	な	る	す	す	り	こ	は	考	び	う	形	き	の	か	
		く	ち	ど	り	開	ふ	日	こ	か	ど	ま	わ	い	え	す	い	を	ま	山	り
		り	の	だ	ル	け	く	母	れ	最	も	す	い	た	る	う	ビ	し	口	名	
		考	怖	け	が	る	ろ	が	は	後	を	こ	が	と	し	話	り	た	明	乗	
		え	い	で	!	と	を	二	あ	の	こ	子	う	り	こ	か	が	ビ	子	る	
		て	話	は	!!!	!	私	や	る	手	ら	ど	い	を	わ	し	一	リ	男	で	の
		か	を	あ	こ	そ	に	二	六	段	し	も	う	し	一	も	般	と	は	す	か
		ら	体	り	の	こ	わ	や	年	と	め	か	意	て	い	う	の	ス	。	礼	
		お	験	ま	よ	に	た	し	生	し	る	い	味	怒	話	一	人	引	ラ	子	義
		答	し	せ	う	は	し	な	の	こ	の	る	の	る	で	つ	々	を	ス	ど	で

退	へ	り	し	う	へ	し		が	う	ド	同	し	の	一	り	ま							
治	ま	ま	と	意	ラ	の	て	れ	に	・	士	ロ	カ	番	中	読	ぼ						
す	ん	せ	聞	味	テ	悪	ア	て	レ	ジ	の	ッ	リ	面	で	ぼ	お	く				ぼ	
る	公	ん	く	だ	ン	味	サ	い	て	エ	戦	パ	ブ	白	も	く	の	は				く	
ヒ	し	ガ	と	そ	語	は	ッ	ま	伝	し	い	の	海	が	六	は	ガ	ア				の	
し	は	ゝ	あ	う	で	暗	ン	す	説	く	の	国	で		番	今	大	サ				好	
口	悪	こ	ま	で	へ	殺	ク	の	ス	話	の	実	た	目	ま	好	ッ					き	
し	い	の	り	す	私	者	り		海	・	で	ス	際	で	の	で	き	ッ			六	な	
的	事	シ	良	。	は	で	し		ぞ	ケ	。	パ	に	す	が	五	で	ク			年	本	
な	き	り	い	ア	信	ク	ド		く	ン	主	イ	起	。	ラ	冊	す	し				生	
役	し	し	イ	サ	ザ	リ	し		と	ウ	ス	ン	と	話	ッ	読	。	ド					
割	て	ズ	メ	シ	る	し	の		た	エ	公	・	た	は	ク	み	全	の			土	坂	
を	い	の	し	ン	ド	。			の	イ	の	イ	海	。	フ	終	部	シ				本	
し	る	ア	ッ	へ	こ	は	ア		た	ガ	エ	ガ	ぞ	+	ラ	え	で	り					
て	人	サ	で	暗	し	。	サ		か	ど	ド	リ	く	ハ	ッ	ま	ハ	し				昌	
い	達	シ	は	殺	と	信	ッ		が	の	ワ	ス	や	世	ッ	し	冊	ズ				聡	
ま	を	ン	あ	者	い	念	ン		書	よ	し	し	ヨ	紀	が	た	あ	本					







中 高 等 部



**中高等部 1 松田 智子 先生**

し	意	ク	試	て	の		し	が	め	学	っ	進	皆	り	た	か			
合	味	を	行	、	回	二	た	な	の	習	た	級	さ	と	の	な	今		
っ	を	小	錯	な	数	学	。	か	時	量	り	す	ん	し	が	ク	年		
た	を	学	誤	ん	を	期		な	間	も	、	る	は	た	、	ラ	一		
り	を	生	し	と	減	か		か	を	半	毎	た	、	サ	ス	年			
し	明	新	ま	か	ら	は		難	確	端	日	め	九	イ	中				
ま	し	聞	し	日	し	は		し	保	な	通	、	月	ズ	高				
し	た	の	た	本	たり	様		い	し	く	う	周	に	に	等				
た	、	記	。	語	、	子		と	て	多	学	り	な	り	部				
。	出	事	興	学	宿	を		の	学	く	校	お	と	ま	一				
実	て	か	味	習	題	見		る	習	を	の	友	現	し	学				
際	き	ら	の	を	量	な		の	を	の	場	達	地	た	期				
に	た	探	あ	続	を	が		で	繼	所	が	も	校	。	当				
小	内	し	り	け	減	ら		、	続	変	変	ガ	で	初	は				
学	容	、	そ	ら	ら	漢		日	し	わ	ラ	中	は	で	、				
生	に	音	う	れ	し	字		本	て	っ	ッ	学	と	九	と				
新	つ	読	な	る	たり	テ		語	い	た	と	校	変	人	と				
聞	い	し	ト	よ	し	ス		の	く	り	と	へ	わ	だ	も				
の	て	た	ビ	う	し	ト		た	こ	、	わ			っ	静				
記	話	り	ッ	に	し	ト		た	と					の					

20 × 20

セ	た	し	の	言	も	毎	さ	授		さ	れ	国	イ	で	て	と	り	た	事
ン	。	ん	中	っ	静	回	ん	業	ま	、	を	語	ン	き	れ	も	し	く	を
タ		で	で	て	か	の	は	が	た	情	べ	教	題	、	を	あ	し	さ	読
ー		い	、	く	で	授	、	行	。	報	ー	科	材	、	ス	り	て	ん	む
行		る	筆	だ	、	業	有	わ	中	を	に	書	は	、	に	ま	、	出	と
事		様	と	さ	真	の	元	れ	高	膨	違	も	一	、	違	せ	き	い	う
の		子	墨	っ	面	様	先	ま	等	ら	う	読	環	、	視	い	た	こ	こ
中		が	を	て	目	子	生	し	部	ま	視	境	境	、	点	い	り	と	は
で		手	使	い	に	を	の	。	一	せ	か	問	問	、	か	思	の	、	、
は		に	っ	た	取	聞	書	中	皆	て	ら	題	、	、	い	に	、	聞	き
、		取	て	の	組	く	道	高	さ	い	ま	」	、	、	い	大	、	き	な
運		る	漢	で	ん	と	ク	等	ま	き	せ	に	、	、	変	変	、	な	れ
動		よ	字	、	で	、	ラ	部	あ	ま	い	つ	、	、	そ	そ	、	れ	な
会		う	を	そ	い	一	ス	一	る	。	い	い	、	、	う	う	、	い	い
が		に	書	れ	ま	皆	を	ク	交		る	て	、	、	だ	だ	、	い	い
盛		わ	く	ぞ	す	さ	取	ラ	流		の	で	、	、	と	と	、	い	い
り		か	こ	れ	よ	ん	り	ス			で	、	、	、	思	思	、	い	い
上		り	と	が	ー	は	ま	の			い	、	、	、	う	う	、	い	い
が		ま	を	静	と	と	し	皆			い	、	、	、	こ	こ	、	い	い
		し	楽	寂		て	た	た			い	、	、	、	こ	こ	、	い	い

20 × 20



ば	れ	字	ば		れ	図	の	本	し	-	初	と							
	い	を	り	三	た	書	読	語	ま	人	々	が	こ					を	
て	外	わ	た	学	本	館	書	を	し	で	て		の					ふ	今
ち	は	す	い	期	を	の	感	し	た	日	お	勉	夏					り	年
		れ	で	は	読	人	想			本	母	強	休					か	一
ん	発	こ	す		み	か	文	べ	だ	の	さ	に	み					え	年
と	表	し		漢	ま	ら	の	り	か	家	ん	な							の
練	会	ま	今	字	し		宿	ま	ら	族	た	り	日					て	日
習	の	い	ま	の	た	お	題	し		と	ち	ま	本						本
を	た	ま	で	勉		す	の	た	た	五	が	し	に	秋				来	語
し	々	し	習	強		す	た		く	週	来	た	行	山				年	学
た	に	た		を		々	々	夏	さ	間	な							の	習
い	が		た	が		を	に	休	ん	す	い	今	た	勉				抱	を
を	ん	そ	漢	ん		さ		又	日	ご	ご	年	こ					負	ふ

									か	又		す	し	書	勉	三	思
									ら	は	野	。	ま	い	強	月	思
									は		球		す	た	は	で	ま
										カ	と		。	り	っ	お	す
									野	テ	カ		日	日	づ	わ	。
									球	の	テ		本	本	け	り	日
									の	バ	も		に	の	ま	ま	本
									系	イ	が		も	ア	す	す	語
									習	ア	ん			二	。	が	セ
									を	ス	ば		行	×	漢		ソ
									し	ロ	り		き	を	字	日	タ
									ま	ン	ま		た	見	や	本	ー
									す		す		い	た	文	語	は
									。	春	。		で	り	を	の	

		漢	に	張		で	す	日		を	た	勉	い			ふ		
		字	来	り	来	す	。	本	家	学	た	強	ま	今		い		
		を	年	た	年	。	そ	の	で	ぶ	あ	で	し	年		か		
		覚	は	い	も		こ	音	は	こ	な	も	た	も		え	今	
		え	日	と	こ		か	楽		と	ど	た	。	セ		。	年	
		た	本	思	の		ら	を	日	が		事	成	ン		。	一	
		い	に	。	調 <small>ちよう</small>	得	聞	本	で	知	が	人	夕				年	
		で	行	こ	子	し	る	い	の	ま	ら	楽	り	。		来	の	
		す	く	い	で		日	た	動	ま	な	し	ら	で		年	日	
		。	の	ま	日		本	り	画	し	か	か	ス	い	岩	の	本	
			で	ち	本		語	し	を	た	。	。	と	ら	本	抱	語	
			様	。	話 <small>わ</small>		も	て	見	。	た	た	。	い	鬼	負	学	
			々	と	を		多	い	た		。	結	ら	雄			習	
			な	く	頑		い	ま	り		葉	。	に	習				を



こ	た	し	人	す	え	が	ぜ	屋	の	す	画	で			リ	
の	こ	ち	た	め	る	な	な	さ	先	を	の	こ			か	
動	い	に	い	先	こ	い	が	ん	生	そ	見	一	の		え	今
画	た	お	け	お	生	と	な	へ	が	の	て	番	一		年	
で	の	ご	す	も	が	が	言	連	外	動	楽	年			こ	一
	が	る	き	し	生	良	葉	ね	国	画	質	し	間			年
又	面	こ	よ	に	徒	い	じ	で	こ	人	の	問	か	の		来
グ	白	と	く	つ	も	と	説	行	の	内	に	日			年	日
ロ	か	に	い	い	思	さ	明	き	生	容	答	た	本	橋	の	本
の	な	先	て	い	し	ま	徒	は	え	勉	語	口	抱	語		
漢	た	生	勉	し	た	に	こ	し	を	た	強	セ		負	学	
字	で	こ	が	強	か	見	も	た	お	日	こ	は	ン	千		習
を	す	し	生	し	う	が	て	分	す	本	と	夕	里			き
知	ま	徒	ま	け	で	教	か	な	し	語	で	動				ふ

								え	く	し	付	ケ	調	他	き	り
								た	さ	い	き	鯛	は	べ	の	ま
								い	ん	年	ま	し	こ	魚	す	し
								ご	見	か	す	で	鮭	み	の	た
								す	て	が	。	す	。	ま	漢	魚
								。	、	も	お	。	サ	し	字	へ
								言	日	も	み	バ	た	に	ん	グ
								葉	本	し	ん	は	。	き	に	ロ
								を	語	る	な	ケ	た	。	ケ	は
								い	の	い	、	鮭	と	、	有	ケ
								動	で	魚	レ	え	み	レ	魚	有
								ぱ	画	す	へ	、	ば	が	で	レ
								い	を	。	ん	夕	、	出	す	と
								覚	た	新	が	イ	サ	て	。	書

語	手		父	ハ		み	針	消		す	こ	い				を	
も	紙	今	母	ン	書	ま	が	せ	文	る		る	た	昨		ふ	
話	を	生	に	ど	道	し	な	る	房	努	て	い	こ	年		り	二
す	送	の	送	手	の	た	い	ペ	具	力	い	る	と	の		か	〇
こ	く	抱	り	紙	先		ホ	ン	の	か	る	な	は	日		え	一
と	る	負	ま	を	生		ッ	は	こ	活	問	話		本		こ	六
	こ	は	し	書	に		千	温	と	動	題	を	環	語		こ	年
そ	と	日	た	い	習		キ	度	も	に	か	読	境	字			年
し	し	本		こ	字		ス	で	習	つ		み	汚	習		今	の
て		の			を		の	消	い	い	そ		染	で	傳	年	日
日	家	戚		日	習		こ	す	ま	て	れ	世	に	印		の	本
本	で	に		本	い		と	こ	し	ご	を	界	つ	象	麻	抱	語
語	日	時		の			を	と	た	す	解	に	い	に	耶	負	字
の	本	々		祖	筆		読	や			決	お	て	残			習

																		本
																		を
																		読
																		む
																		こ
																		と
																		で
																		す
																		。

習	思	て	な	題	も	な	き	い	友	る	直	語			え	
字	い	何	を	増	年	今	ま	け	だ	と	セ	ぼ			っ	
の	ま	度	を	す	え	で	年	し	れ	ち	は	こ	ソ	く	て	今
授	し	も	し	る	て	し	一	た	と	か	思	ん	夕	は		年
業	た	て	ま	時	た	年	毎	で	な	一						の
が	ソ	い	間	日	は		週	き	て	に	に	児				日
始	で	夕	ま	が	本	中	と	が	い	長	通	童				本
ま	も	し	あ	語	学	て	ん	勉	ま	く	っ	一				語
り	を	た	ま	せ	生	も	は	強	せ	通	て	の				学
二	や	リ	ソ	に	チ		っ	は	ん	い	い	時	山			習
い	学	め	そ	取	夕	な	て	む	で	続	ま	か	本			を
つ	期	よ	の	れ	し	し	通	ず	し	け	す	ら				ふ
も	が	う	せ	な	の	宿	ソ	っ	か	た	ら	日	大			り
の	ら	と	い	く	宿	題	ジ	て	し	れ	正	本				か

					の	生	う	も	ど	表	な		思	て	を	く	よ
					が	ま	な	楽	の	会	く	ろ	い		学		う
					今	で	気	し	ア	の	な	学	始	今	ん	習	な
					の	通	が	く	ク	れ	期	め	や	で	字	勉	
					目	い	し		テ	ん	で	に	ま	め	い	の	強
					標		て	ま	い	し	し	な	し	る	く	授	ば
					で	き	い	だ	ビ	ま	つ	た	の	の	業	か	
					す	ち	ま	ま	テ	う	い	て	は	は	を	り	
					ん	す	だ	い	や	ま	習		も	と	通	の	
					と	が	な	新	し	字		た	て	し	授		
					卒	中	ん	ど	聞	た	の	い	も	て	業		
					業	学	ば	は	作	が	授	な	楽	日	で		
					す	る	れ	と	り	業		い	し	本	は		
					る	年	そ	て	な	発	は	と	く	語	な		

楽	と	事	ん	よ	な	く	し	か	を	し	で	ま	習	の			
し	て	で	な	り	ら		い	絵	好	い	い	し	字	い	ぼ		
く	も	ち	で	も	え	習	か	書	き	で	っ	左	を	二	く		四
ち	う			好	る	字	ら	い	な	す	ば		日	年	は		年
が	れ	友	い	き	の	を	で	て	よ		い	だ	本	に		ム	ぶ
し	し	達	っ	な	も	し	す	る	う	な	出	か	の	日	習	レ	り
た	い	と	し	の	好	て		よ	に	せ	来	ら	小	本	字	イ	の
い	で	や	よ	が	き	い	そ	う		な	る	今	学	い	か	テ	習
と	す	る	に		で	る	れ	に	書	ら	の	年	校	っ	好	イ	字
思		の	習	全	す	時	だ	か	け	ぼ	が		で	た	き		
い	今	が	字	員		に	け	ん	る	く	と	せ	い	ハ	で	遼	
ま	後	ぼ	を	で	で	書	で	じ	の	は	て	っ	っ	が	す	眞	
す	も	く	ち		も	漢	は	て	が	漢	も	夕	は	月			
		は	る	み	何	字	な	楽	何	字	楽	い	し	間	二		



**中高等部 2 棗田 敦/大場 貴志 先生**



1年を振り返って

中高2担任 大場貴志

このクラスとの出会いから早1年が経とうとしています。とても個性的なメンバーが揃い、自分の意見をしっかりと持った子たちが多いなか、どんな授業をしたらこの子たちの長所を引き出せるのかと考えるながら授業を行ってきました。1学期は「詩の群読」、「スキット(ロールプレー)」、「ミステリー短編のジグソーリーディング」、「アリバイ探し」などを行いながら、仕上げとして授業参観ではチーム対抗での「マイクロ・ディベート」を行いました。『動物園は必要か』というテーマで、賛成派と反対派に分かれ、白熱した議論を展開し、最後は保護者の方々から勝敗をジャッジしていただきました。チームで協力しながら、クラス全員が積極的に日本語で発言し、深い内容の意見を次々と出す姿には感激しました。ディベートという高度な言語活動を1学期でできてしまうこの子たちの潜在能力の高さを実感させられました。さらに、今年度は成人クラスの授業にも合同で参加させていただきました。成人3の授業では、「車のセールのロールプレー」に参加しました。また、成人5の授業では「NASA(砂漠の悪夢)」という、砂漠でのサバイバルに必要なものの優先順位をつけていく活動にも参加しました。

2学期は、私が大学のリサーチで日本へ一時帰国したため、棗田先生から代講していただき、引き続き密度の濃い授業をしていただきました。ディベートの継続や、ディスカッション、カードゲーム、読み物教材、漢字、ジャーナルライティングなど、漢字などの知識面の強化と、書く技能を高める指導も丁寧に行っていました。さらに、算数、時事や書道などの授業を受ける機会もあり、様々な活動や科目を通して日本語を学ぶことができました。3学期に日本から戻り、クラスへ戻ると、心身ともに成長した姿を感じ取ることができました。日本では言語(英語)の学習というと、ドリルとか受験勉強という、いわゆる「お勉強」的なことが多く、生徒たちもなかなか英語が使えるようにならない、英語が嫌いになってしまうというジレンマがずっと続いています。やはり言葉を学ぶためには、楽しく、一生懸命に、自分の意見や気持ちを友人たちに伝えるというやりがいを感じるということが大事だと思っています。そのためにも、クラスの友人との人間関係も大事です。わずか週1回の授業でしたが、このようなたくさんの活動ができたのは、クラスでの人間関係も良くなったという証だと思えます。今、最後の発表会に向けて、中高3と合同で創作劇の練習に励んでいます。どんな個性的な演出が見られるのか楽しみます。

今年度、様々な充実した活動ができたのは、担任のみならず、親身に丁寧に指導していただいた棗田先生や他のクラスの先生方のサポートなしには語れません。また、温かく見守りながら親身にサポートしていただいた保護者の皆様にも感謝いたします。生徒のみんなには、これだけの高

度なことを週1回の授業でできたという自信をもってもらいたいと思います。本当によく頑張りました。これからも、日本に興味を持ち、日本語を使ってコミュニケーションすること、本を読むこと、映画を見ることなどを楽しんでもらいたいです。勉強というよりも、楽しい目的があるほうがきつと身につくと思いますし、長く日本語と付き合っていけると思います。最後に、日本語センターという素晴らしい場所での出会いに感謝してこの1年を締めくくりたいと思います。楽しく授業をさせていただきありがとうございました！

一年間を振り返って

棗田 敦

昨年度、児童クラスをいくつかアシスタントとして渡り歩いた経験を買われたのか、今年度は二学期から中高等部の代講をやってほしい、というオファーをいただきました。非力ながら9月から今年1月末まで、中高等部2を担当させていただきました。

今年はセンター全体としても色々新しい試みに取り組んだ年だったようで、中高等部は特に成人クラスとの合同授業や、習字クラス、他の学年とのエクステンジなど、バラエティに富んだ内容だったと思います。

ちょうど二学期からの受け持ちという事で、僕の最初の仕事は、夏休みの課題のチェックから始まった訳ですが、どの生徒たちもさすが長年センターに通い続けて来ただけあって、日本語での基本的なコミュニケーション能力や読解力といったものは概ね出来上がっているような印象を受けました。

僕がカナダにやってきたばかりの頃は、学校で習った英語力があってもなお、ネイティブスピーカーと英語でコミュニケーションする時は、どうしても緊張や違和感を感じずには居られなかった訳ですから、こうした慣れの感覚をすでに持っている彼らは非常に大きなアドバンテージを持っているな、と思わずにはられません。

そこで、大場先生が用意してくださった教材を中心に、アクティビティー主体の授業をするように心がけてみました。限られた時間の中で、できるだけ能動的に日本語を、それも友達と一緒に使っていければ、それが一番価値があるだろうと思ったからです。合同授業やエクステンジなどで、中々まとまった時間を取れない時期もありましたが、そういう時は、簡単なコミュニケーション系のゲームを使って生徒たちと一緒に遊んだりして、普段からすでに忙しい生徒たちと日本語がなるだけ競合しないように心がけたつもりです。

わずか5か月の間でしたが、非常に長くもあり、短くも感じられた代講でした。志を持って臨んだつもりが、その通りに行かなかったことも多くあり、自分の力不足を痛感するとともに、他クラスの先生方や、教員代表の江本先生、何より、こうしたこちら側の事情を、意にも介さず毎週クラスに通ってくれる生徒たちの元気な姿に支えられ、救われた1年でした。ありがとうございました。

し	こ	の	た	た	出	は	こ	が	別	空	し	ど	る	め	日				
い	い	は	日	。	。	こ	な	む	し	店	の	港	ン	ろ	人	空	こ	本	こ
と	ぬ	た	本		こ	い	し	か	ま	こ	世	の	ド	き	が	港	び	へ	の
思	い	の	に		も	な	こ	っ	じ	も	界	か	り	ま	と	に	す	行	冬
い	語	し	行		一	く	い	く	た	ま	に	か	し	こ		。	き	休	本
ま	を	い			週	こ	る	と	。	じ	来	り	な	た	も	っ	ま	み	中
し	し	ご	こ		間		と	き	と	め	と	の	ぶ	。	こ	い		し	に
た	ら	す	家		ご	た	き	も	き	な	お	人	ん	カ	い	た		た	。
。	な	が	ぞ		そ	い	い	あ	ど	話	も	は	い	ナ	ね	と		私	部
	い		く		れ	く		り	き	い	い		気	ダ	い	き		冬	は
私	そ	や			い	つ	が	ま		か	ま	も	ご	の	に			の	二
	に	こ	友		な	だ	お	し	こ	た	し		し	空	話	は		日	年
	は	に	だ		れ	と	に	た	い	ご	た	と	た	港	し	た		本	半
		住	ち		こ	思	気	。	ね		。	ま	が	ご	て	る		は	ぶ
	む	む	に		き	い	も	そ	い	変	。	い		は	い	い			り
	ず	の	会		ま	ま	ち	し	す	な		め	日		こ	こ		は	に
	か	は	う		し	し	が	こ	ぎ	気		ご	本	フ	ご	い		い	

つ	て	く	き	る	で	に	を	と	こ	生	生	す	た	で	の	す	来	最				
い	も	な	る	の	き	伴	伴	し	と	き	き	°	時	き	こ	°	を	も	恐			
こ	、	り	人	で	な	う	い	て	は	こ	る	そ	の	な	と	そ	怖	怖	怖			恐
し	そ	ま	と	す	い	責	ま	一	、	き	こ	し	こ	い	で	の	れ	れ	つ			怖
ま	の	す	出	°	ほ	任	す	人	と	た	と	こ	と	こ	す	う	こ	き	い			
う	人	°	会	そ	ど	な	°	で	こ	家	も	、	を	と	°	ち	し	せ	て			
こ	を	そ	え	し	に	ど	大	生	も	族	怖	家	考	や	勉	の	ま	る	語			
と	失	し	な	こ	難	は	人	き	つ	の	い	族	え	、	強	一	う	物	る			
か	つ	こ	か	ま	し	、	た	る	ら	い	で	か	る	望	に	つ	要	と	こ			
怖	て	仮	つ	た	い	私	ち	と	い	な	す	ら	と	む	つ	が	因	は	と			フ
い	し	に	た	、	物	に	の	い	こ	い	°	離	私	職	い	、	は	、	に			フ
の	ま	出	ら	生	の	は	仕	う	と	家	長	れ	は	に	て	学	数	未	し			ア
で	う	会	と	涯	よ	と	事	こ	で	に	い	て	怖	つ	い	校	多	来	ま			1
す	こ	え	思	を	う	こ	や	と	す	住	間	ひ	く	け	く	で	く	で	す			
°	と	た	う	共	に	も	、	は	°	む	一	と	な	な	こ	の	あ	す	°			直
病	、	と	と	に	思	想	そ	責	大	と	緒	り	り	か	と	勉	り	°	私			美
気	傷	し	怖	で	え	像	れ	任	人	う	に	で	ま	つ	が	強	ま	未	を			

自	し	ら	な	て	そ	ま	に
分	ま	生	く	も	れ	う	な
と	う	き	て		ら	こ	る
戦	°	る	は	そ	の	と	こ
い	だ	こ	な	れ	恐	も	と
な	か	と	り	で	怖	ま	や
か	ら	は	ま	も	す	た	
う	私	人	せ	私	べ		誰
°	は	生	ん	は	て	恐	か
	生	を	°	毎	か	る	を
	き	つ	恐	日	私	し	病
	て	ま	怖	を	を	り	気
	い	ら	を	生	襲	こ	で
	く	な	感	き	つ	と	失
	°	く	じ	て	た	で	っ
	毎	し	な	い	と	す	て
	日	て	が	か	し	°	し

で	の	日	し		に	近	分	で	し	が	も	い	歳		ナ	ニ	し	い						
あ	文	本	て	も	意	ず	の	み	た	住	考	頃	で	て	ダ	年	こ	ま	私					
	化	語	子	し	識	き	中	た		ん	え	は	す		人	に	こ	す	は					
で	も	を	供		す	た	で	い	で	で	て		が	日	で	一	で		日					私
も	色	伝	が	自	る	い	日		も	い	い	日	色	本	も	度	育	自	本					し
そ	々	え	で	分	よ	し	本	も	今	る	ま	本	ん	人	あ	ぐ	て	分	人					日
れ	学	た	き	が	う	将	人		は	楽	せ	し	な	で		ら	ら	は	の					本
は	ん	い	た	日	に	来	の	し		し	ん	言	悩	も	し	い	れ	口	母					
	で	し	ら	本	な	の	ア	勉	日	い	で	う	み	あ		行	ま	ナ	し					マ
そ	欲	思		ん	り	こ	イ	強	本	国	し	国	が	る	フ	き	し	ダ	フ					イ
も	し	い	そ	以	ま	し	テ	し	語	た	た	に	あ	の	ラ	ま	た	生	ラ					了
そ	い	ま	の	外	し	考	ン	た	を	し		っ	り	で	ン	す		ま	ン					ス
も	し	し	子	の	た	え	テ	い	も	思	た	い	ま		ス		日	れ	ス					伊
自	思	た	供	人		て	イ	な		っ	た	て	す	ま	人	自	本	で	人					藤
分			た	し		い	テ	じ	し	て	祖	特		た	で	分	に		の					
か	た	日	ち	結		た	イ		学	い	父	に	小	十	も	は	は	ず	父					弓
日	の	本	に	婚		時	に	自	人	ま	母	何	さ	五	あ	わ		っ	が					

当	ど	い	て	気	不	に	ち	に	自	住	し	ち	い	か			思	だ	の	に	わ	本
た	ち	づ	、	付	安	日	る	は	分	む	く	、	間	日	ま		、	り	お	通	か	語
り	、	が	自	か	な	本	の	、	の	の	、	で	で	本	た		て	、	蔭	、	り	を
前	他	壊	分	な	事	で	は	日	よ	し	日	も	も	の	、		い	日	で	て	ま	話
に	に	れ	の	か	が	生	大	本	う	は	本	私	住	大	私		ま	本	、	い	し	せ
外	は	る	中	、	あ	活	変	の	に	、	の	が	み	学	は		す	と	日	て	た	な
国	、	の	に	た	り	で	な	社	日	し	良	今	た	に	日		、	の	本	良	、	、
人	日	で	あ	日	ま	き	よ	会	本	て	い	ま	い	い	本			関	に	か	そ	か
し	本	は	、	本	す	る	う	で	語	も	所	で	し	、	の			係	つ	、	れ	に
し	人	な	た	の	、	よ	に	勉	が	達	た	見	本	て	事			が	い	に	で	ら
て	に	い	日	欠	そ	う	思	強	良	う	け	て	気	勉	が			少	て	し	日	出
見	も	か	本	点	れ	に	い	し	く	し	で	き	で	強	好			し	た	思	本	来
ら	、	も	の	が	は	な	ま	た	話	思	す	た	考	し	き			深	く	い	語	が
れ	て	い	良	見	、	、	す	り	せ	い	、	日	え	た	で			め	さ	ま	セ	い
ま	自	う	い	え	今	た	、	仕	な	ま	実	本	て	り	、			れ	ん	す	ン	事
あ	分	こ	い	て	ま	時	実	事	い	す	際	は	い	、	い			た	学	、	タ	だ
、	は	し	メ	き	で	に	際	を	人	、	に	楽	ま	短	つ			し	ん	そ	し	し



															せ	で	ず	を		も	そ	ち	そ
															ん	、	。	乗	で	作	の	が	れ
															。	日	新	り	も	れ	せ	い	は
																本	し	超	、	る	い	、	、
																に	い	え	色	か	で	生	か
																行	事	て	々	心	、	活	ナ
																ま	に	行	な	配	日	習	ダ
																た	も	く	不	で	本	慣	が
																い	ず	の	安	ず	人	も	ら
																気	々	が	も	。	し	ち	来
																持	レ	大	あ		の	が	た
																ち	ン	事	り		良	う	の
																は	ツ	だ	ま		い	か	で
																変	し	し	す		友	ら	考
																わ	た	思	が		人	で	え
																り	い	い	そ		関	ず	方
																ま	の	ま	れ		係	、	も

う	る	正	せ	お	ご	お	か	に	て	て	物	初	し	ま	こ					
ゆ	い	月	ち	じ	は	り	め	°	ペ	グ	と	グ	食	も	に	し	こ	ほ		
ず	わ	ち	料	い	ん	を	ら	け	ん	の	を	べ	う	°	に	に	く			
く	は	ち	理	ち	を	後	れ	れ	か	っ	も	し	ま	で	先	°	着	は		
り	し	ご	を	°	食	イ	ま	ど	ら	ぎ	か	ま	し	を	ず	長	く	冬		楽
が	°	し	食	ん	ベ	タ	せ	す	見	は	な	し	た	し	最	旅	に	休		し
に	う	ま	べ	と	ま	り	ん	ぐ	え	山	い	た	°	に	初	の	め	み		い
い	ぬ	し	て	お	し	ア	で	に	る	へ	ま	°	そ	り	に	あ	に	を		又
け	と	に	°	ば	に	°	し	霧	夜	行	世	友	の	°	母	と	十	日		休
ん	言	°	テ	あ	°	め	た	か	景	き	ん	達	あ	店	の	色	八	本	ム	み
で	う	あ	し	ち	つ	レ	°	現	は	ま	で	が	と	と	し	々	時	で	レ	
き	と	と	ビ	°	ぎ	ス	そ	れ	美	し	し	と	友	か	り	な	間	す	イ	
ま	°	和	と	ん	の	ト	し	て	し	た	た	て	達	で	あ	こ	の	ご	テ	
し	ろ	歌	か	め	日	ラ	て	長	い	°	も	と	い	い	と	飛	し		テ	
た	で	山	見	家	ほ	ソ	山	く	物	山	ボ	う	ボ	ろ	と	を	行	も		龍
°	し	に	て	で	く	で	か	は	で	の	°	ま	う	ん	共	し	を	し		耶
	°	女	お	お	は	夜	ら	な	し	て	リ	く	リ	な	に	ま	し	た。		

																		び	ら	一	カ	と		
																			は	見	ハ	ナ	と	
																			と	え	行	ダ	も	
																			こ	る	き	に	む	
																			い	も	景	ま	帰	ず
																			ら	楽	色	し	る	ガ
																			れ	し	は	た	前	し
																			に	ガ	き	の	ガ	
																			ら	れ	全	日		
																			良	た	い	長	は	た
																			い	で	で	数	東	で
																			で	チ	し	百	京	す
																			す	た	メ	ス		
																			ッ	コ	ト	カ	を	
																			ぎ	コ	ト	イ	し	
																			は	の	ト	ツ	こ	
																			も	旅	カ	リ		

メ	無	お	か	の	と	員	と	空	ス	日	ら	し	こ	を	代	ご						
キ	か	別	ら	達	バ	が	日	港	キ	本	た	こ	と	書	育	す	二					
シ	の	れ	の	物	ン	成	本	を	に	ぎ	く	い	か	ま	成	千						
コ	た	の	一	に	ク	田	に	出	プ	行	な	ま	ま	研	失	十						
の	ご	日	月	い	一	空	着	し	しく	と	か	し	し	修	ず	六						
人	あ	以	は	バ	港	き	こ	ま	た	後	た	こ	た	の	年							本
と	外	楽	し	一	に	ま	か	し	ぬ	悔	た	の	の	プ	ジ	の						当
ド	に	し	よ	か	待	し	ら	た	に	す	け	先	と	お	ロ	ヤ	夏					に
コ	シ	は	み	に	ら	た	十	僕	る	ど	ず	こ	兄	グ	イ	体						素
ロ	ニ	悲	だ	行	来	こ	二	モ	の	た	も	ち	ラ	カ	は							晴
ン	カ	し	け	き	たい		時	ン	中	ろ	今	僕	楽	ヤ	ム	の	素			山		ら
ビ	共	り	た	き	人	こ	ジ	間	ト	学	う	行	は	し	人	の	日	晴		城		し
ア	和	日	の	し	と	ヤ	か	り	校	こ	か	あ	か	か	た	系	ら					い
の	国	は	た	た	ジ	ト	イ	け	オ	の	思	な	ま	の	前	ぬ	社	し			丈	夏
人	の	一	ご	の	ヤ	ロ	カ	こ	一	試	ま	か	り	た	行	に	会	か			恵	体
と	人	の	す	こ	イン	の	ヤ	ル	験	し	の	参	こ	の	文	次	の				琉	み
と	も	の	れ	カ	ト	部	の	を	た	た	加	言	た	書	世	た						。

			い	は	行	に	に	ぐ	土	ぬ	き	町	人	こ	す	か	過	こ	れ	た	津	べ
			夏	い	き	小	、	足	る	ど	た	に	か	で	る	っ	ご	に	の	こ	い	ネ
			休	あ	ま	学	ド	が	ち	も	か	泊	い	一	時	た	ま	住	あ	ご	経	ズ
			び	る	し	校	イ	疲	ヤ	、	ら	ま	ア	週	、	で	し	ん	と	か	験	エ
			し	け	た	の	ッ	ぬ	コ	ケ	と	リ	ル	間	特	す	。	び	に	お	び	ラ
			た	ど	。	友	に	ま	ス	で	こ	ま	プ	ぐ	別	。	皆	い	は	ど	し	の
			。	、	言	達	三	し	が	ッ	も	レ	ス	ら	な	時	か	る	フ	る	た	人
			こ	え	か	日	た	あ	ク	楽	た	に	い	場	々	元	家	ラ	く	。	た	ち
			あ	な	今	行	。	ん	に	の	。	あ	過	所	、	気	族	ン	ほ			ち
			は	か	住	き	ア	王	は	し	僕	る	ご	ち	フ	そ	た	ス	ど	そ	と	と
			本	っ	ん	ま	ル	り	こ	か	は	ア	し	え	ラ	う	ち	に	と	し	友	達
			当	た	び	し	プ	な	ん	。	高	又	こ	ら	ン	で	と	行	思	て	達	
			に	こ	い	た	ス	い	な	た	い	シ	い	ん	ス	こ	一	っ	い	無	に	
			素	と	る	。	に	か	高	で	山	、	ま	び	に	こ	月	こ	ま	料	た	い
			晴	か	の	で	行	ら	い	す	が	で	す	、	旅	も	一	、	す	で	っ	
			ら	い	会	そ	く	、	山	。	大	い	。	あ	行	楽	緒	。	び	こ		
			し	っ	い	こ	前	す	た	け	好	う	こ	そ	た	し	に	そ	そ	き	物	

に

ゆ	に	う	と	か	ゆ	の	年	す	た	た	い	好	で	ク	く	ワ	も					
う	と	を	か	し	た	う	で	ぐ	。	あ	ひ	だ	き	そ	す	う	の	ン	聞	私		
か	思	す	で	い	た	を	。	ら	私	す	い	と	で	し	。	シ	か	ル	い	は		
で	い	る	き	の	。	し	時	い	は	れ	て	思	す	て		ッ	好	で	て	。	音	
き	ま	時	な	で	い	て	間	た	。	て	い	う	。		ク	き	は	い	音	楽	か	
た	す	間	い	。	つ	い	か	ち	ビ	し	る	か	そ	私		。	で	な	ま	楽	か	
ら	。	か	の	な	も	ま	あ	ま	ア	ま	時	ら	れ	は		ア	す	く	す	た	大	
。	も	も	で	か	現	す	る	す	ノ	。	は	で	は	。		ル	。	。	。	聞	好	
私	。	。	。	な	地	。	時	か	を	て	。	す	。	ビ		エ	た	い	と	く	ウ	き
か	こ	と	ビ	か	校		は	。	ひ	。	い	。	ビ	ア		ン	と	ろ	く	の	ド	
好	た	あ	ア	ビ	の		。	ま	き	楽	っ	そ	ア	ノ		ド	え	い	に	か	ン	
き	く	。	ノ	ア	勉		い	だ	は	し	も	れ	ノ	を		ビ	ば	る	。	大		
な	さ	た	の	ノ	強		っ	ビ	い	く	っ	に	の	ひ		。	。	な	決	好	ア	
。	ん	ら	れ	を	で		も	ギ	め	に	ら	。	音	く		と	ホ	音	き	き	り	
グ	れ	い	ん	ひ	。		れ	ア	て	な	い	ビ	か	の		。	。	。	。	。	。	。
ル	ん	い	し	く	い		ん	。	。	り	こ	ア	き	も		。	。	。	。	。	。	。
。	し	の	。	。	。		し	な	ニ	ま	と	ノ	れ	大		ズ	。	。	。	。	。	。



好	で	部		三	供	し	無	ス	こ	と	ど		子	フ		ハ	で							
き	す	一	二	日	の	た	く	ト	も			本	て	ガ	グ	ハ	リ	も	私					
た		日	十	で	話	が	し	リ	良	新	新	は		ホ	ガ	リ	一		は					
け	ハ	で	十	読	で	た	一	か	し	し	た	悪	グ	書	一			あ	本					
れ	リ	見	六	み	す	映	話	で		い	リ	冊	い	フ	レ		ホ	る	を					ハ
ど	一	ま	年	ま		画	し	す	た	映	本	で	人	一	た	ホ			話	た				リ
		し	の	し	す	と	で		で	画	と		を	ッ	本		タ	が	く					一
一	ホ	た	夏	た	ご	ち	す	男	す	を	映	映	倒	と	で	タ	一	大	さ					・
番			に		く	ガ		の	見	画	画	す	い	す	一	で	好	ん						ホ
好	夕	す			面	新	人	映	に	が	は	の	う		は	す	で	読						ッ
き	一	ご	友		白	て	し	が	画	行	出	ハ	で	魔	本	」		し	み					タ
な	の	く	達		か		い	魔	は	き	ま	本	す	法	の		た	ま						土
の	映	楽	と			ハ	本	法	刺	ま	し	で		の	話	ク		す						屋
は	画	し	映		た	り	も	の	激	し	た	す		学	は		そ							
四	を	か	画		の	一	買	軌	的	た				校		ロ		の	そ				珍	
番	全		を		で	の	い	物	な		友	け		に	男	一		本	の				愛	
ぬ	部	た	全			子	ま	を		と	達	れ		行	の	リ		は	中					



										と		行	い	イ	サ		深	か	ト	一	〴	で
										何	=/	く	で	ス	ル	ハ	い	ら	が	番	夕	す。
										回	リ	や	す	ニ	・	リ	で	で	カ	強	一	
										も	一	く		一	ス	一	す	す	を	く	と	四
										読	ズ	そ	い	ワ	タ	・		と	て	炎	番	
										み	を	く	っ	一	ジ	ホ		ハ	リ	悪	の	め
										返	全	を	が	ル	オ	〴		リ	も	魔	ゴ	の
										し	部	し		ド	に	タ		一	ど	法	フ	タ
										た	読	ま	友	み	あ	一		と	し	使	レ	イ
										い	ん	し	達	た	り	の		友	て	い	〴	ト
										て	た	た	と	い	ま	世		達		の	トル	
										す	け		一	で	す	界		の	ハ	ウ	で	は
											水		緒	す		は		関	リ	〴	す	ハ
											と		に	こ	子			係	一	ル		リ
													そ	行	こ	ニ		も	と	テ	そ	一
											も		こ	き	は	バ		興	戦	无	れ	・
												へ	た	テ	一			味	う	一	は	ホ

概	う	に	あ	の	プ	ん	に	せ	に	も	す	る	ほ	本	章	分			
な	に	思	る	ハ	私	レ		ん	私	対	い	こ	日	ど	ご	に	で	私	
の	操	う	と	一	に	漢	ス	は	す	る	日	と	本	で	は	表	思	に	
で	る	と	思	フ	と	シ	字	ラ	だ	ハ	る	と	本	を	人	感	現	と	私
し	域	い	い	の	ッ	ヤ	を	ス	か	一	思	思	の	表	に	私	想	す	て
よ	に	う	ま	人	て	一	書	ラ	カ	フ	い	い	文	現	と	に	文	る	考
う		こ	す	た	の	を	か	ス	英	で	人	ま	化	で		は	の	方	え
	達	と	ち	作	感	な	と	語	れ	す	の	き	て	ピ	コ	法	て	本	ラ
い	し	は	け	が	文	い	け	書	ヤ	日	も	一	る	は	ン	ン	で	感	語
つ	て		れ	感	は	ま	れ	く	フ	本	様	人	つ	素	と	ク	す	じ	で
の	い	日	ど	じ	す	ば	コ	ラ	育	々	に	と	晴	自	き	一	て	書	マ
日	な	本	も	て	お	な	と	ン	ち	だ	よ	思	カ	分	ま	ル	け	い	ク
か	い	語		い	そ	カ	カ	ス	で	と		し	が	せ	な	れ	る	作	で
		と	を	コ	る	カ	な	出	語	も	思	て	て	い	思	ん	ど	ど	二
私	い	流	ん	事	く		い	来	の	あ	い		い	方		が	も	と	は
の	う	ち	な	で	沢		し	ま	よ	り	ま	作	る	法	て	あ		を	
作	証	様	も	山			せ	う	ま	す	文	人	で	い		る	日	文	白

で文  
しに  
よ対  
うす  
かる  
態<sup>ヒ</sup>  
度  
が  
変  
わ  
る  
時  
が  
来  
る  
の



**中高等部 3 有元 明子 先生**

この一年を振り返って

中高等部3 有元 明子

「日本語の勉強をしにこんなにあくさんの人が！」今年度採用される前に、はじめて日本語センターを見学に来た時の印象です。来ている人の多さにも驚かされましたが、日本と関わり続けられるコミュニティーを大切にしたいという熱のようなものがとても強く感じられました。

見学後めでたく採用され、中高等部で国語と書道を担当させていただくことになりました。

国語については、「興味のあるものを」「役立つものを」ということを意識しながら授業を組み立てました。学習は興味をもてば、自分たちでどんどん進めていくことができますし、習ったことが定着すると思っただけからです。しかし、生徒たちの興味はどこに向いているのか分かりません。雑談を交えながら、常にみんなの興味のあることを探っていました。その結果、日本の芸能情報については生徒の方がずっと詳しく、私は遅れているのだということがわかりました。

しかし、ティーンエイジャーたちの興味は、芸能情報にだけ向いているわけではありませんでした。日本で起こった地震、オリンピック、食文化、現代の社会問題、伝統文化などについて、カナダでの自分たちの生活と関連させて考えていること、また、日本への興味を常に持ち続けていることがよくわかりました。

書道について。普段教えている私にとって書道は楽しいものですが、さて、この生徒たちは筆を持つことを楽しんでくれるのだろうか。私の一番の課題でした。ですので、私の到達目標は「楽しんで日本文化に触れる」ことにしました。

書道の時間には、姿勢や筆の持ち方、線の書き方などの基本をおさえつつ、創作や筆ペンで手紙を書くという活動も行いました。書作中に私語をしないように言ったことはないのですが、書いている時はみんな真剣そのもので半紙に向かっていました。あの時間を楽しいと感じてくれたら嬉しいかぎりです。

このように手探りの一年でしたが、あつという間にもう終わりが近づいています。文集の題は、全員で話し合っただけで決めました。授業中には聞き出せなかった生徒たちの希望が書かれています。

最後になりましたが、保護者の皆様、授業へのご理解とご協力をありがとうございました。また、役員の皆様、先生方には多くのサポートをいただきました。お礼を申し上げます。

と	桜	び	に	ル	カ	ジ	学	そ	私	ナ	か	ら		や	セ	ジ	る						
が	を	ニ	た	加	に	ロ	エ	に	の	の	シ	ら	、	来	プ	カ	エ	と	ニ				
な	見	〇	い	え	入	レ	ッ	通	デ	夢	ヨ	で	そ	年	ロ	フ	ッ	思	〇				
い	た	一	と	て	リ	ア	プ	え	イ	は	ナ	す	こ	は	ム	ダ	プ	い	一			ニ	
の	い	七	思	、	た	の	で	る	プ	、	ル	。に	ブ	も	リ	が	ま	七				〇	
で	で	年	フ	ス	い	社	は	可	口	日	・	そ	は	レ	楽	一	始	す	年			一	
桜	す	の	て	ペ	と	会	イ	能	マ	本	バ	の	特	ブ	し	を	ま	。は				七	
を	。春	い	イ	思	科	ン	性	を	の	カ	ブ	別	フ	み	卒	る	な	と				年	
見	春	に	ま	フ	い	学	タ	が	取	大	口	口	な	に	で	業	か	ぜ	て			に	
た	に	は	す	語	ま	の	一	高	フ	学	レ	グ	ブ	通	す	す	ら	か	も			私	
こ	日	日	。と	す	歴	ナ	く	た	に	ア	ラ	口	い	。る	で	と	楽					が	
と	本	本		ド	。史	シ	な	ら	行	と	ム	グ	ま		の	す	い	し				し	
は	に	に		イ	歴	プ	ヨ	り	、く	言	は	ラ	す	で	。う	い						た	
な	行	行		ツ	史	口	ナ	ま	日	こ	い	イ	ム	。私	う	一						駒	い
い	フ	く		語	の	フ	ル	す	本	と	ま	フ	が	な	卒	は	と	年				井	こ
で	た	の		も	授	イ	。の	で	す	タ	あ	ぜ		業	今	、に							と
す	こ	で		学	業	一	バ	セ	大	す	。一	る	な	式	年	セ	な						空

											い	く	い	な		当	で	の	い
											で	が	け	ら	で	を	す	で	っ
											す	ひ	な	、	も	食	°	本	も
											°	っ	い	勉	、	べ	桜	物	ド
											よ	で	強	日	た	の	の	ラ	
											う	す	を	本	い	木	桜	マ	
											な	°	す	や	と	の	を	や	
											の	そ	ご	セ	い	下	見	ア	
											で	れ	く	ジ	っ	で	る	ニ	
											本	に	が	エ	も	日	の	メ	
											当	は	ん	ッ	思	本	が	で	
											に	と	ば	プ	°	の	と	し	
											が	て	ら	に	て	家	て	か	
											ん	も	な	行	い	族	も	見	
											ば	ど	く	さ	ま	と	祭	れ	
											り	り	て	た	す	お	し	な	
											た	フ	は	い	°	弁	み	い	

		一		思	あ	い	く		す	始	験		ッ	ら	業		た						
		生	け	今	い	ま	ね	こ	ニ	ぶ	ま	に	ニ	フ	仕	す	ま	く	ニ				
		懸	れ	年	出	り	い	と	こ	く	り	合	っ	び	事	る	お	と	〇				
		命	ど	も	を	に	か	ひ	目	楽	ま	格	目	勉	が	こ	最	ん	一				ニ
		頑		忙	作	お	ら	す	に	し	し	す	に	強	簡	と	初	あ	七				〇
		張	や	が	り	い			や	み	た	る	や	を	単	ひ	に	り	年				一
		り	り	し	た	ひ	最	随	り	に		こ	り	や	に	す	や	ま	に				七
		ま	た	い	い	す	後	分	た	待	自	と	た	れ	見		り	す					年
		す	い	年	ひ		に	前	い		分	ひ	い	る	っ	卒	た		私	小	に		に
			こ	に	す	ま	行	か	こ	こ	ひ	す	こ	か	か	業	い		が	林	私		が
			と	な		た		ら	と	い	運		と	ら	る	証	事						が
			を	る		行	た	日	は	ま	転	去	は	ひ	し	書	は		て		百	し	た
			や	と			時	本		す	を	年	運	す		を	中		み		合	た	た
			る	思		こ	の	に	日		す	の	転		三	も	学		た		子	い	事
			た	い			記	行	本		る	夏	免		一	ら	か		い				事
			め	ま		い	憶		に		の	か	許		ジ		ら						事
			に	す		い	が	こ	行		を	ら	試		エ	た	卒						は



す	り	の	の	れ	友	行	行	フ	ろ	事	校	ど	ス	込	た				
。た	日	年	そ	し	達	き	口	月	そ	で	で	入	ン	お	最	い	今		
い	、	で	れ	い	や	た	た	り	に	れ	す	ち	学	と	事	初	と	年	
し	友	ら	と	で	家	事	い	タ	ク	か	。ヤ	で	言	と	に	思	、		二
、	達	月	、	す	族	か	で	を	ル	ら	ん	き	う	、	し	い	二		〇
色	や	に	今	。と	な	す	訪	い	、		と	る	セ	入	た	ま	〇		一
ん	家	は	年		旅	い	。れ	ズ	今		勉	と	ジ	学	い	す	一		七
な	族	プ	は		行	国	日	る	に	年	強	は	エ	す	事	。七			年
思	と	ロ	ハ		に	ち	本	け	行	は	を	か	ッ	る	は		年		に
い	き	ム	イ		行	発	に	れ	く	旅	し	ぎ	フ	事	セ		で	沼	私
で	れ	ガ	ス		け	見	も	ど	の	に	な	ら	に	で	ジ		は	野	が
を	い	あ	ク		た	し	行	ほ	で	行	け	な	行	す	エ		色		し
持	な	り	、		ら	た	き	か	、	き	れ	い	き	。ッ		人		友	た
ち	写	ま	ル		す	い	た	の	バ	た	ば	か	た	私	プ		な	美	い
た	真	す	の		こ	で	い	所	ハ	い	と	ら	い	は	に		事		事
い	を	。最			く	す	し	に	マ	で		言	、	け	ド	申			
で	取	そ	後		う	。、	も	と	す			う	学	れ	、	し			

																				る	の		た	自	そ	
																					と	四	今	ら	分	の
																					思	っ	年	良	で	上
																					い	を	、	い	お	、
																					ま	成	色	と	金	仕
																					す	し	ん	思	を	事
																					、	縁	な	い	貯	を
																						け	事	ま	め	見
																						た	を	す	た	っ
																						ら	し	、	い	け
																						す	た		し	た
																						ご	い		、	い
																						く	け		責	と
																						幸	れ		任	思
																						せ	ど		を	い
																						に	、		も	ま
																						な	こ		っ	す。

端午の節句



端午の節句



端午の節句



# 子供の目



端午の節句



端午の節句



端午の節句







# 書き初め





分節

